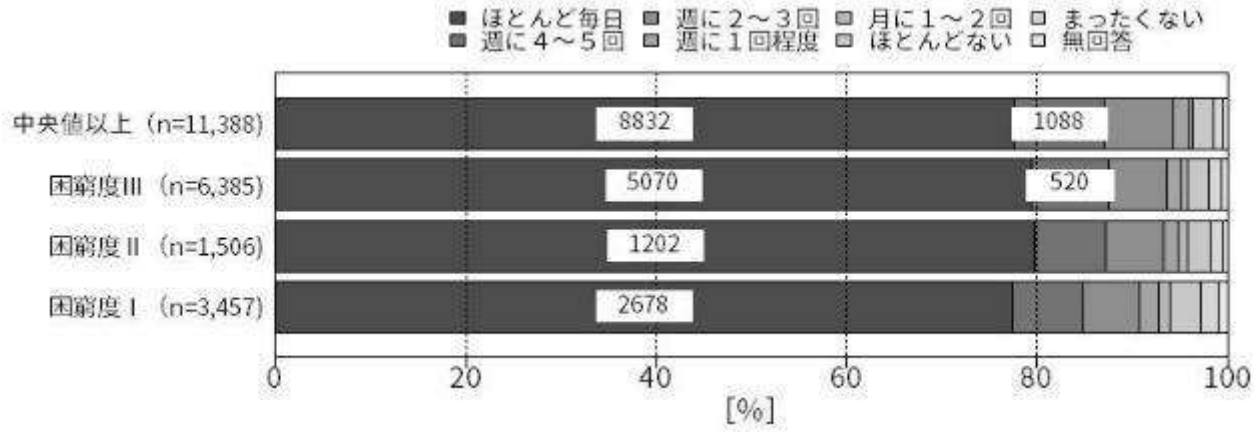
困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）
（子ども票　問 10②）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

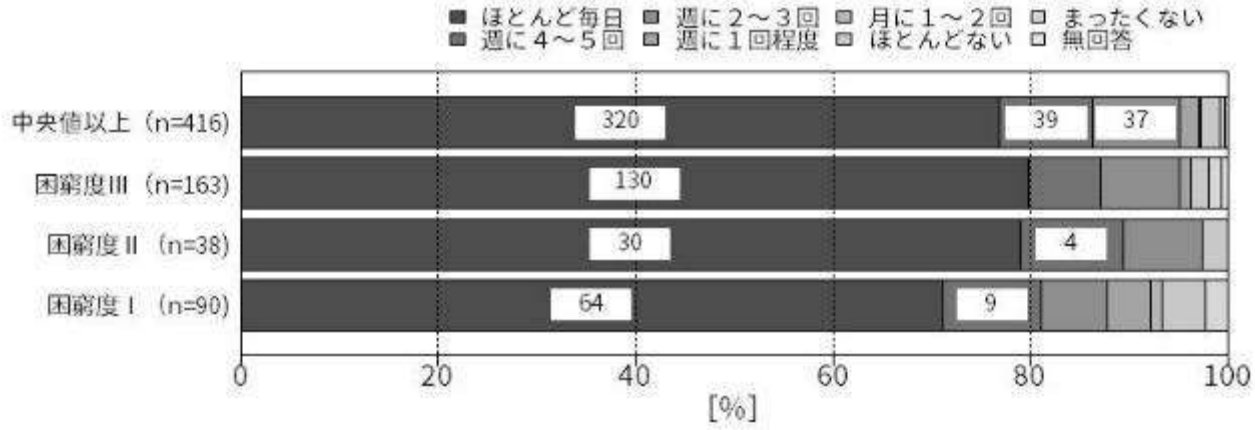
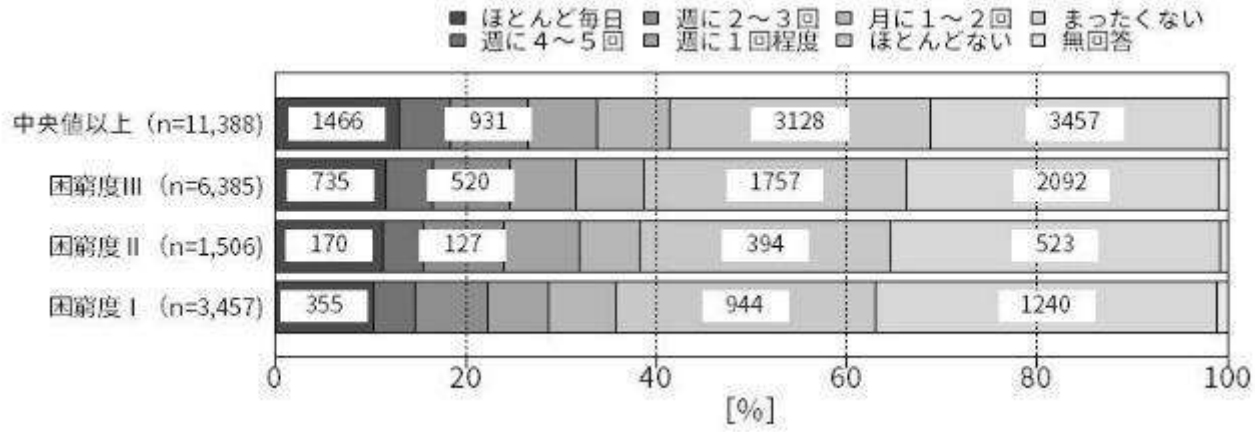


図 207. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、概ね、「まったくない」と回答した人の割合が高くなる傾向にあった。困窮度 I 群では、「まったくない」が 2.2%、「ほとんどない」が 4.4%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）
（子ども票　問 10⑤）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

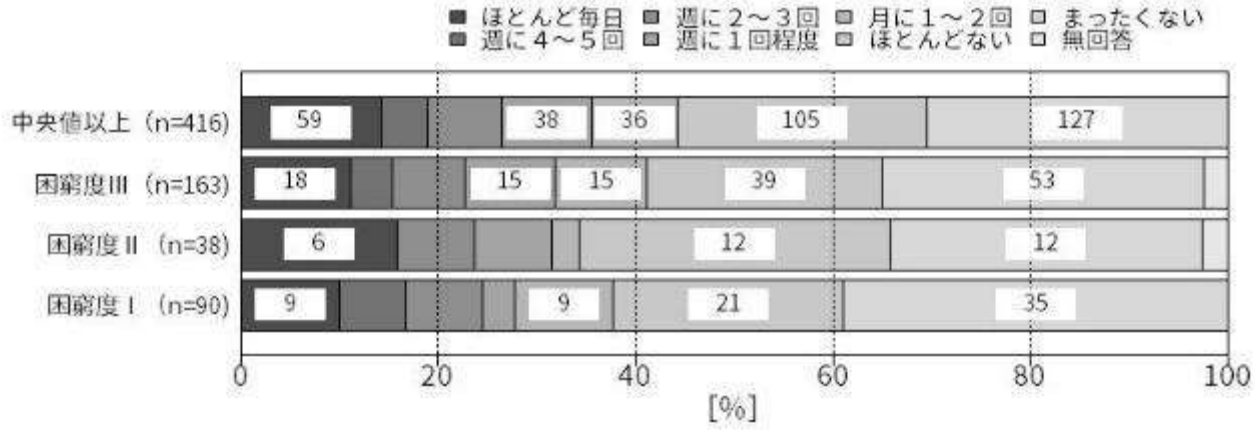
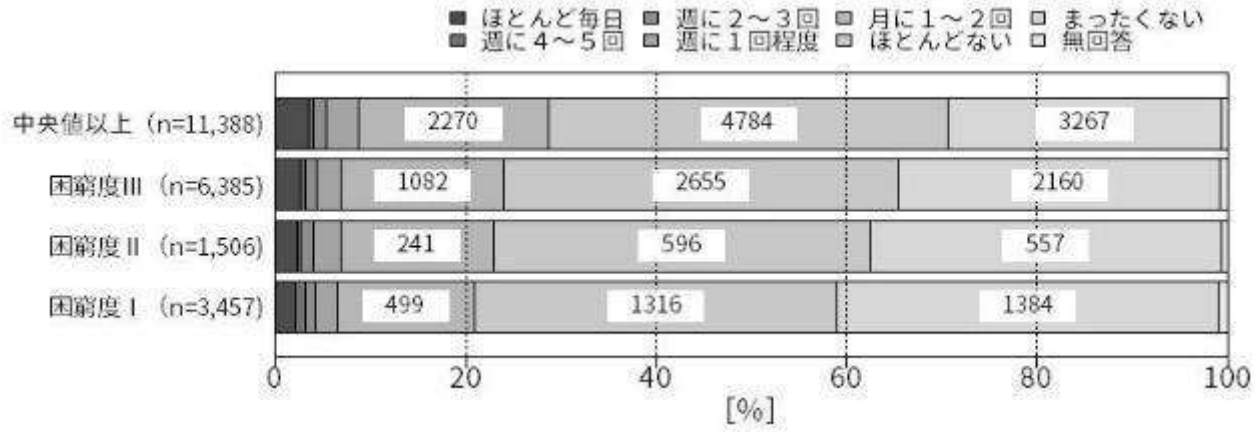


図 208. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高くなる傾向にあった。困窮度 I 群では、「まったくない」が 38.9%、「ほとんどない」が 23.3%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
（子ども票　問 10⑨）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

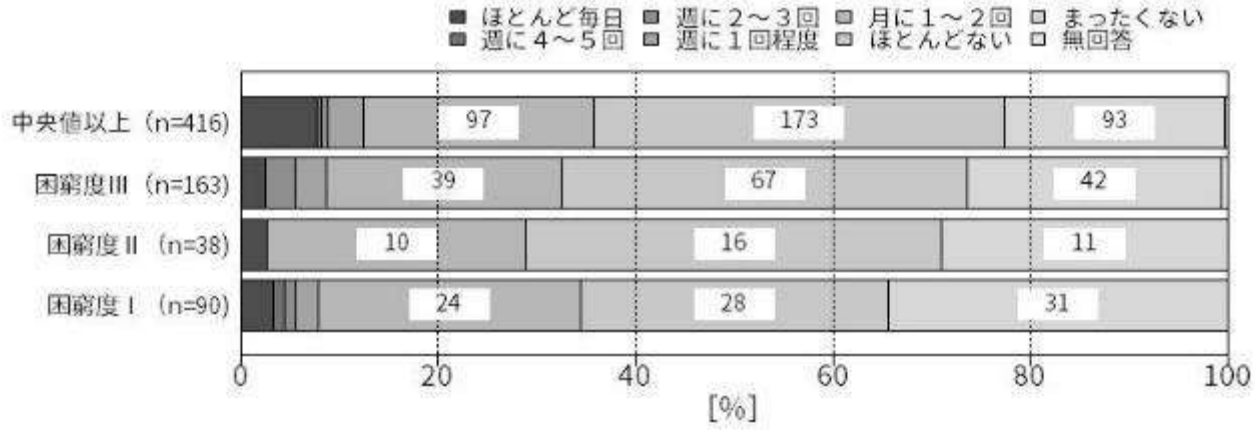
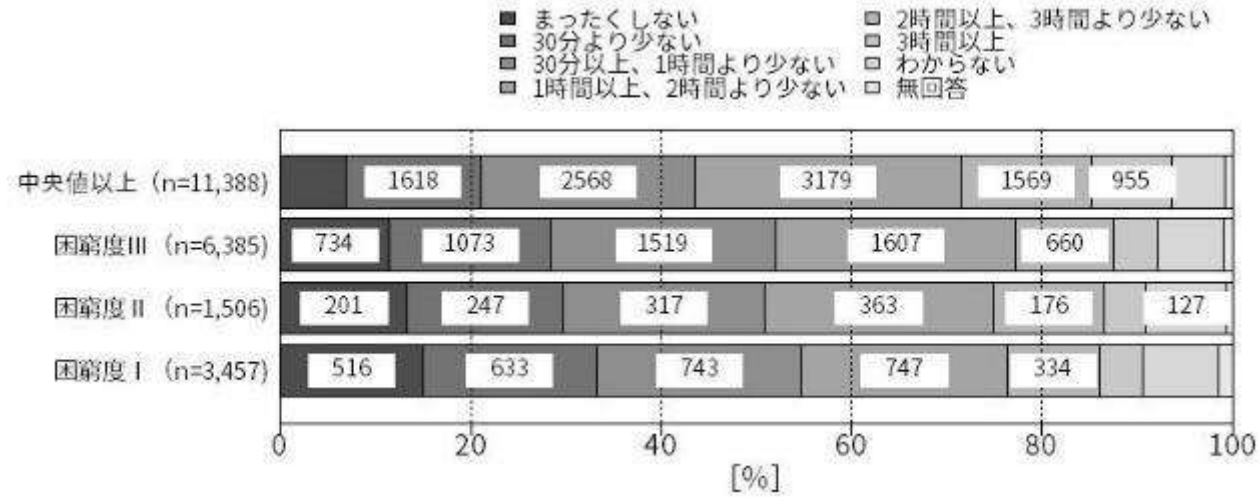


図 209. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高い傾向にあった。困窮度 I 群では、「ほとんどない」と回答した人は 31.1%、「まったくない」と回答した人が 34.4%であった。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票　問 14）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

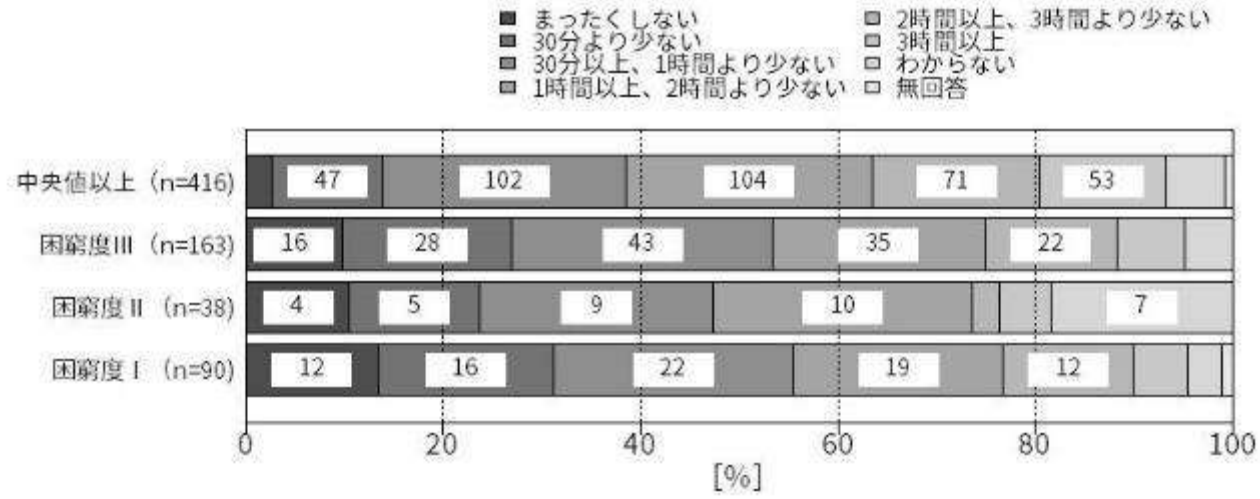
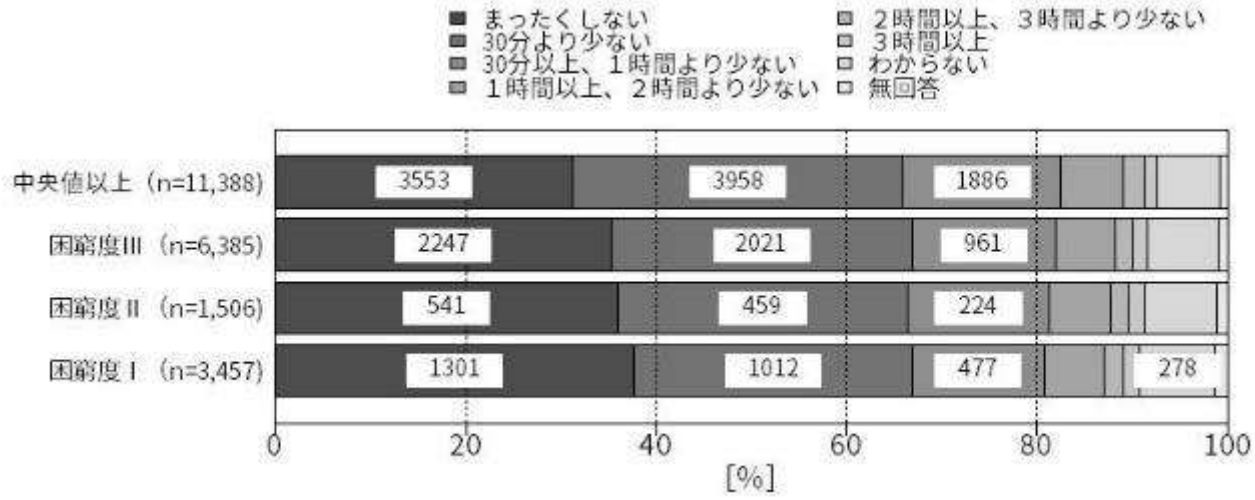


図 210. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間

困窮度別の授業以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」・「30 分より少ない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にあった。困窮度 I 群では、「まったくしない」と回答した人は 13.3%であった。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票　問 19）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

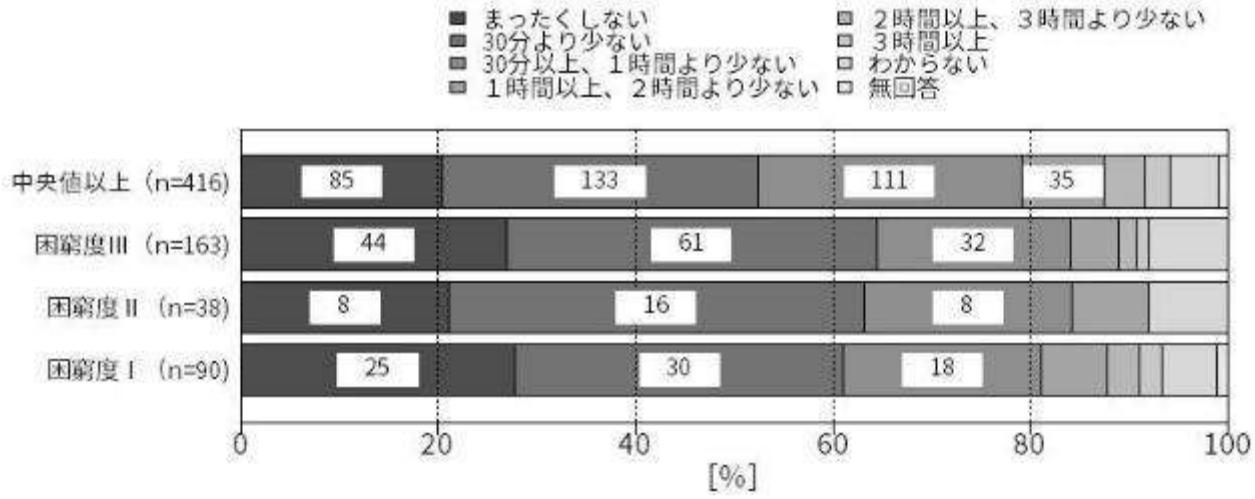
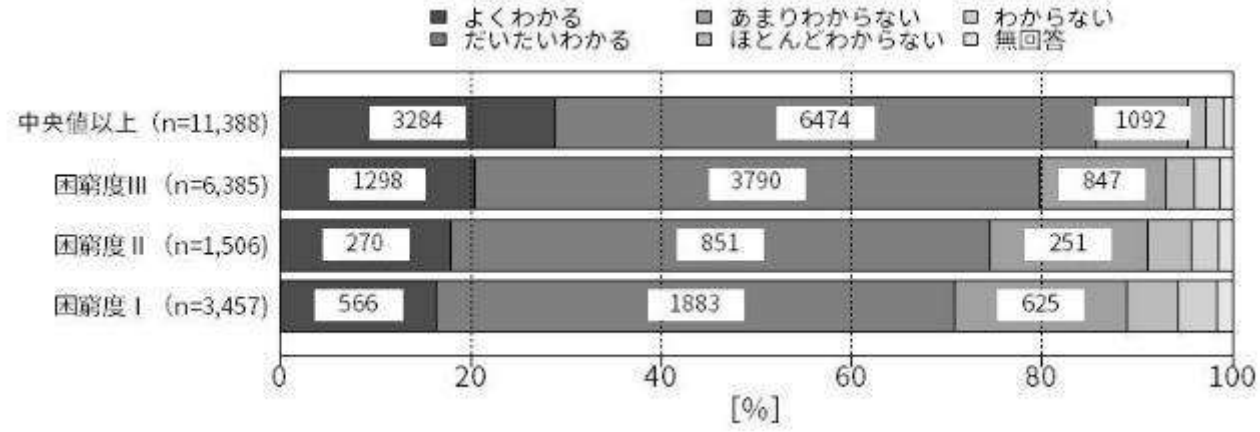


図 211. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別の読書以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にあった。困窮度 I 群では、「まったくしない」と回答した人は 27.8%であった。

困窮度別に見た、学習理解度（子ども票　問 18）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

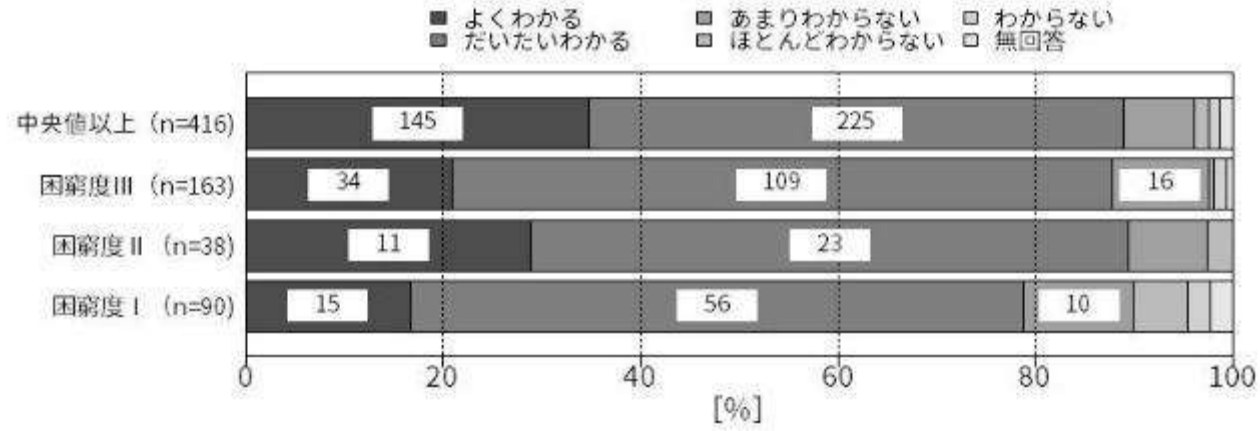
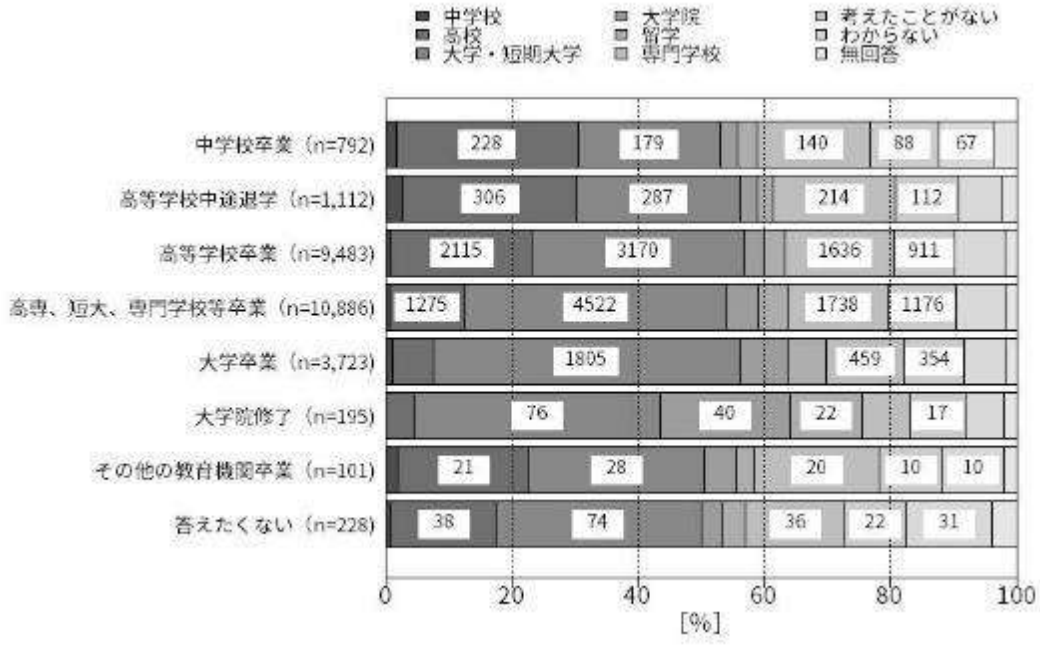


図 212. 困窮度別に見た、学習理解度

困窮度別の学習理解度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「ほとんどわからない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にあった。困窮度 I 群では、「ほとんどわからない」と回答した人は 5.6%であった。

母親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票　問 8 × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

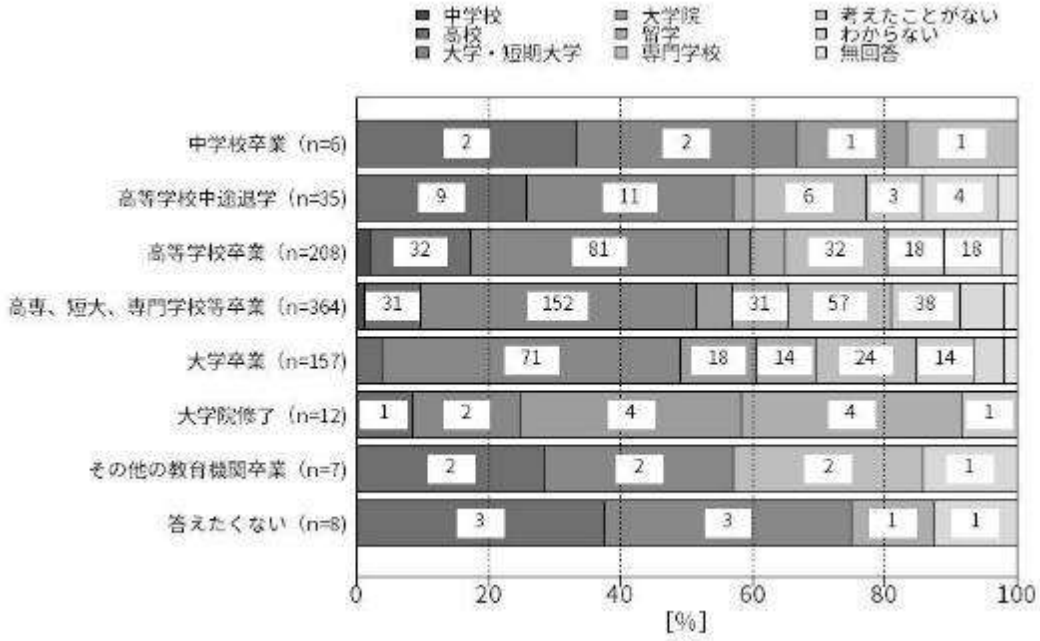
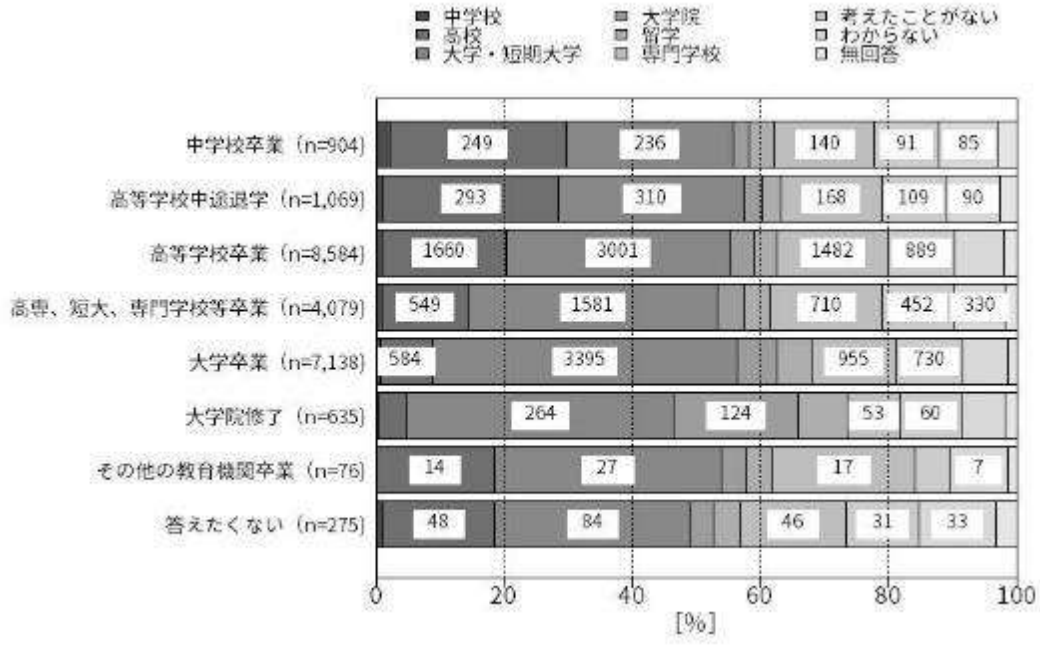


図 213. 母親の最終学歴別に見た、希望する進学先

母親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、母親が中卒または高校中退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にあった。

父親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票　問 8 × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

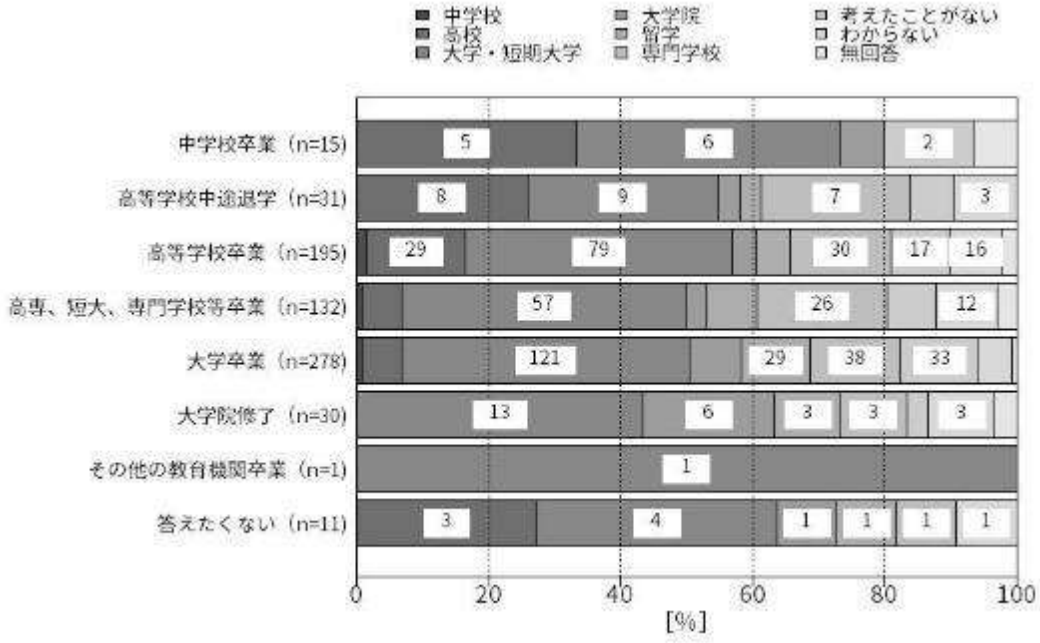
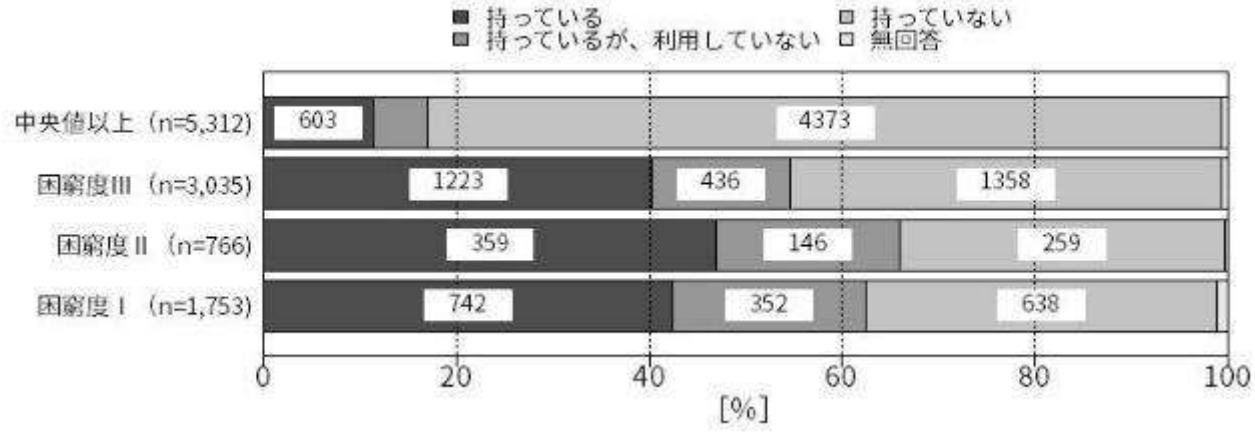


図 214. 父親の最終学歴別に見た、希望する進学先

父親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、父親が中卒または高校中退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にあった。

困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況（保護者票　問 18）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

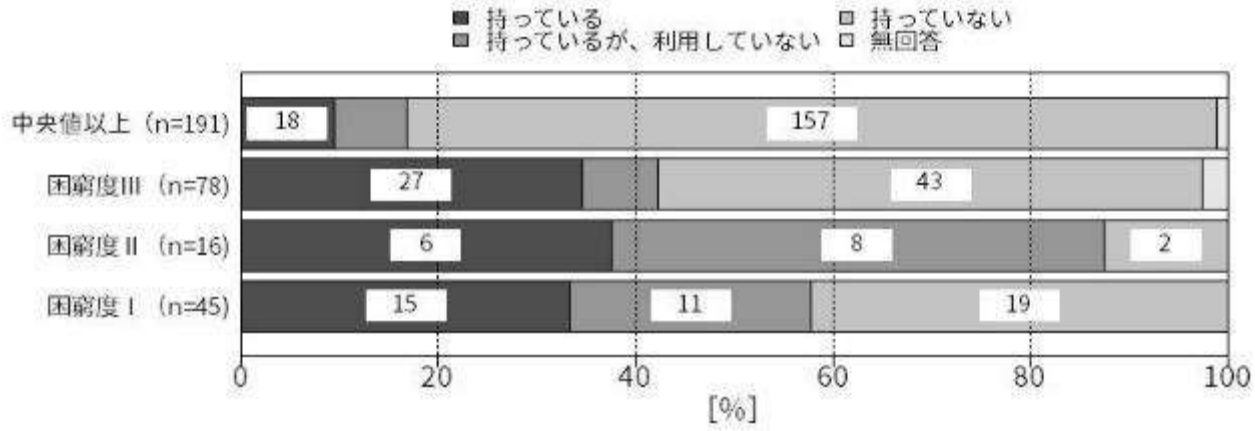
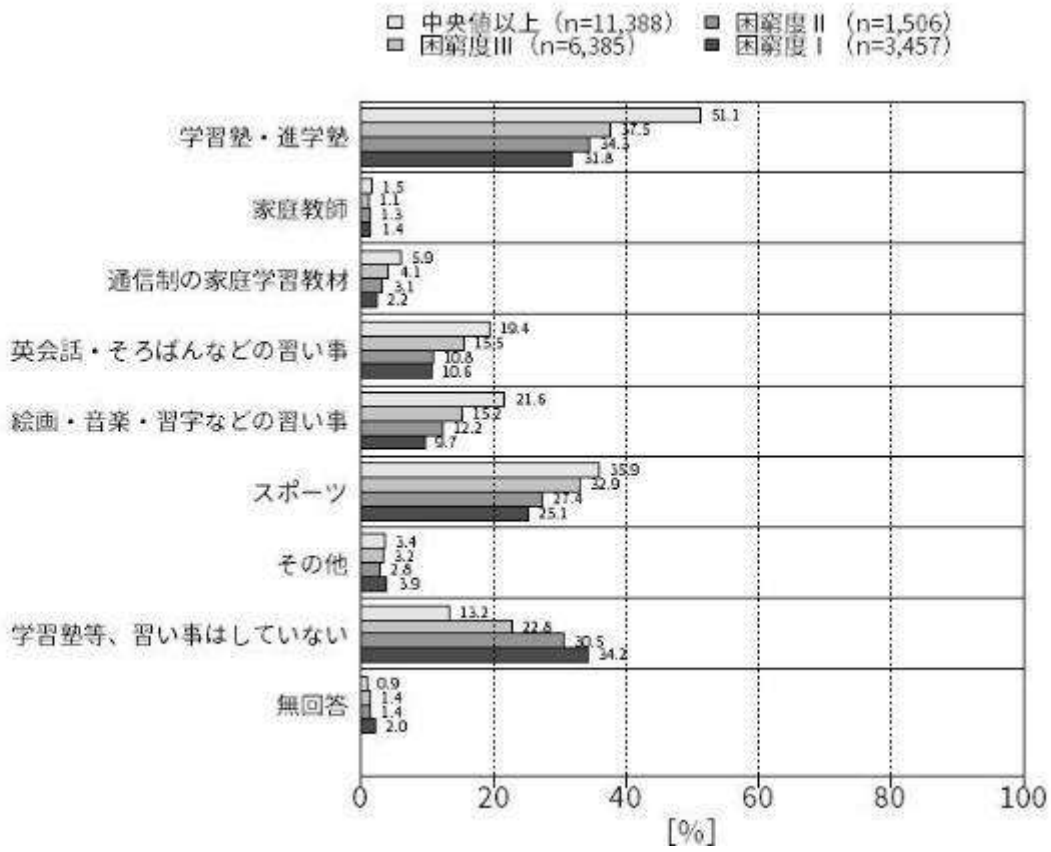


図 215. 困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況

困窮度Ⅰ群では、塾代助成カードを「持っている」が 33.3%で、困窮度Ⅱ群では 37.5%、困窮度Ⅲ群では 34.6%であった。

困窮度別に見た、学習塾等の利用状況（子ども票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

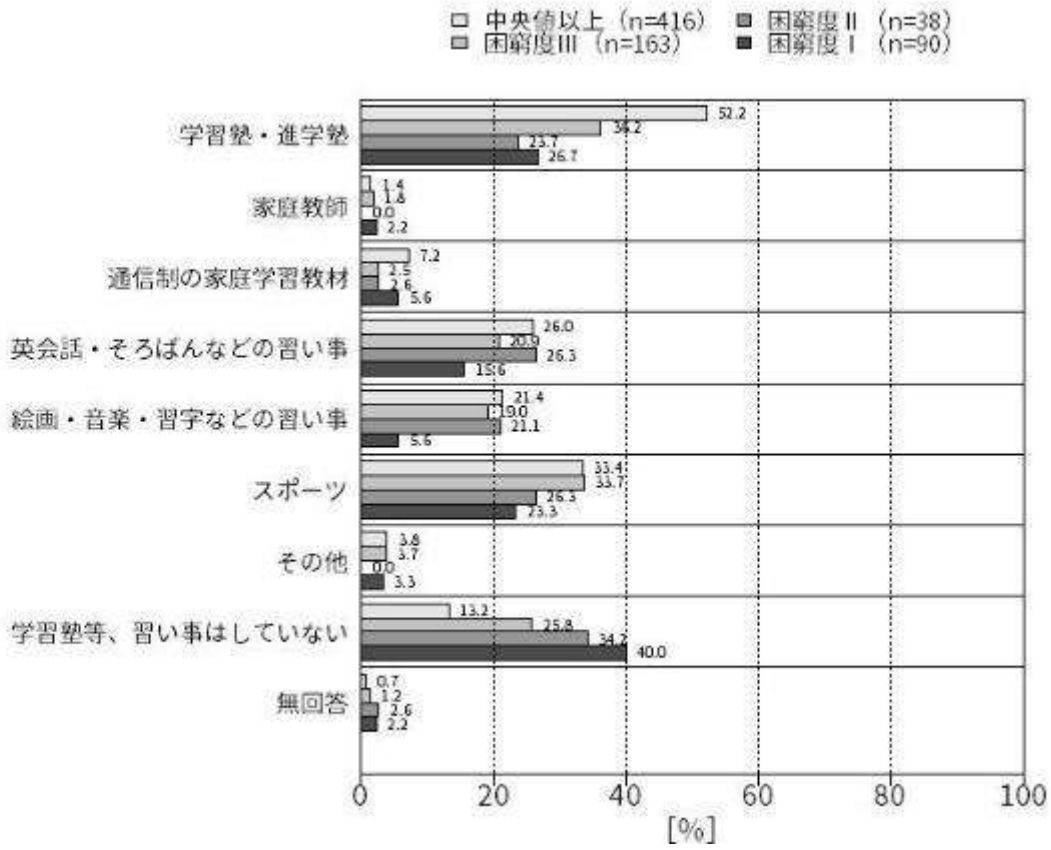
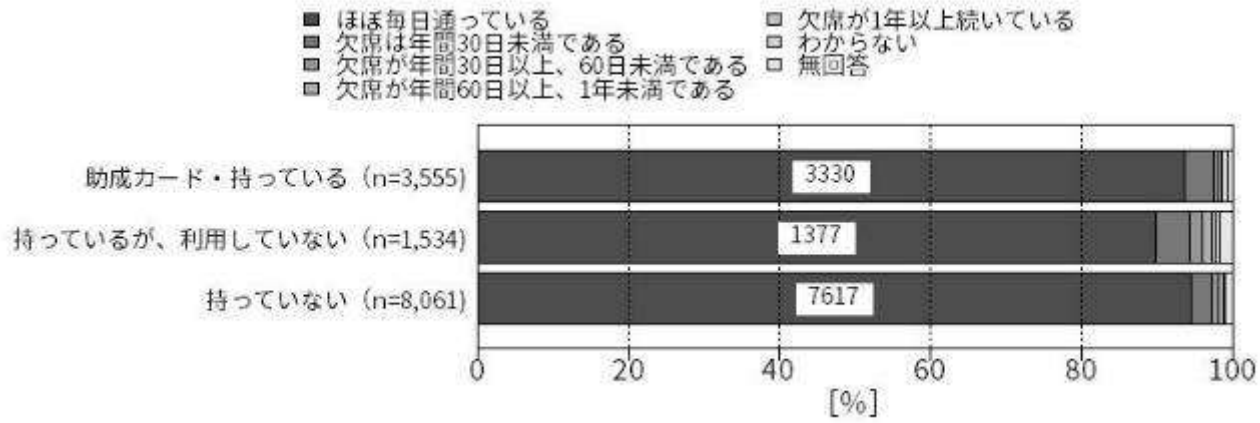


図 216. 困窮度別に見た、学習塾等の利用状況

困窮度Ⅰ群では、「学習塾・進学塾」に通っていると回答した割合が 26.7%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では 23.7%、困窮度Ⅲ群では 36.2%であった。「学習塾等、習い事はしていない」と回答したのは、中央値以上群では 13.2%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では 40.0%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況（保護者票　問 18 × 保護者票　問 21）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

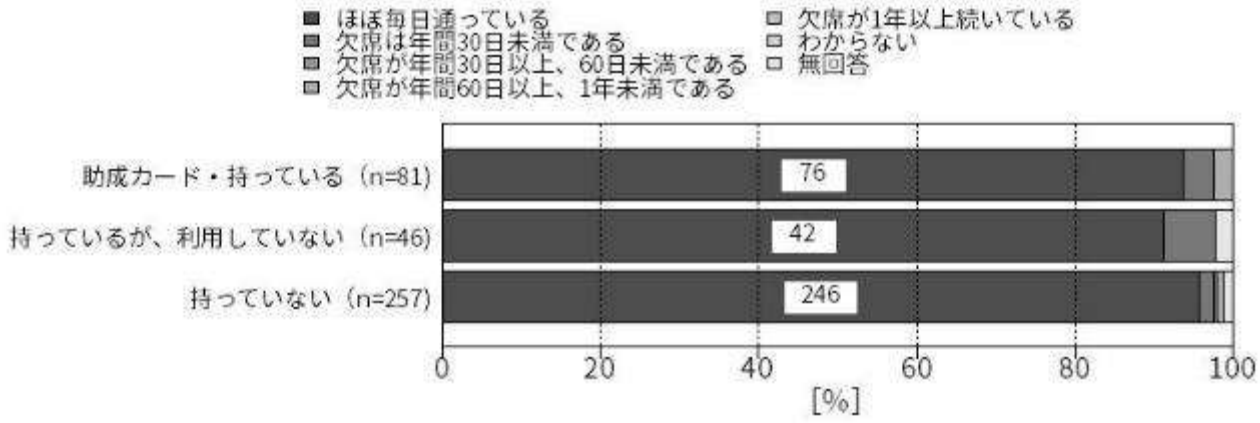
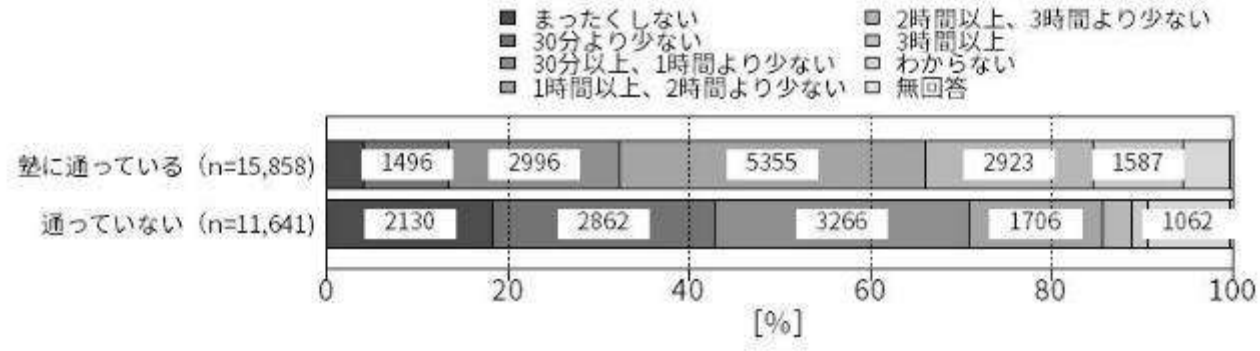


図 217. 塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況

塾助成カードを持っていない人は、子どもが学校に「ほぼ毎日通っている」と回答した割合が 95.7%であったのに対し、持っているが利用していない人が 91.3%、持っている人が 93.8%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票　問 15 × 子ども票　問 14）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

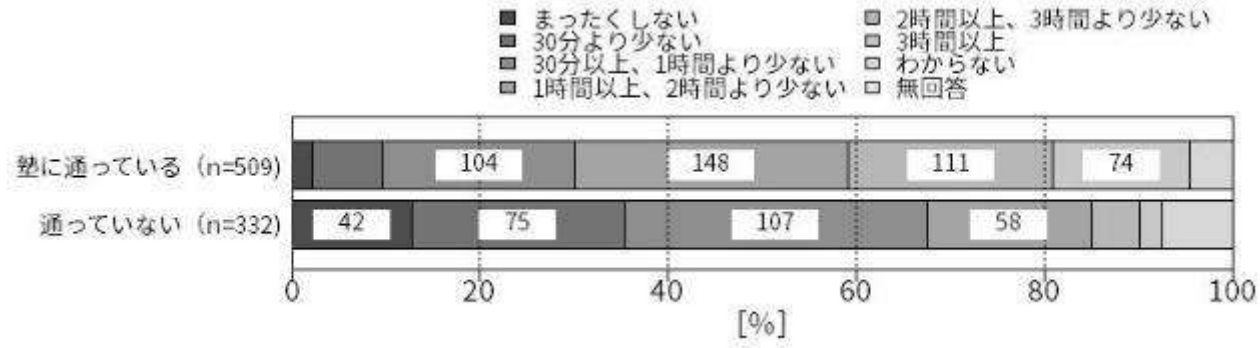
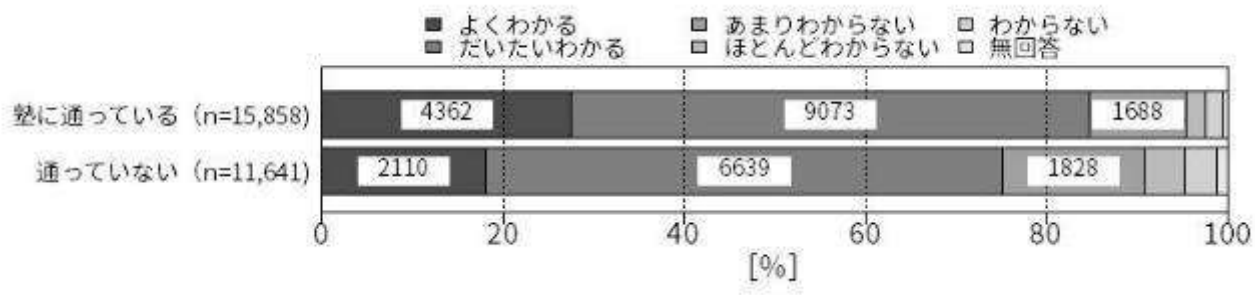


図 218. 学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間

勉強を中心とした塾に通っていない人は、授業時間以外に勉強を「まったくしない」が 12.7%であったのに対し、塾に通っている人は 2.2%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度（子ども票　問 15 × 子ども票　問 18）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

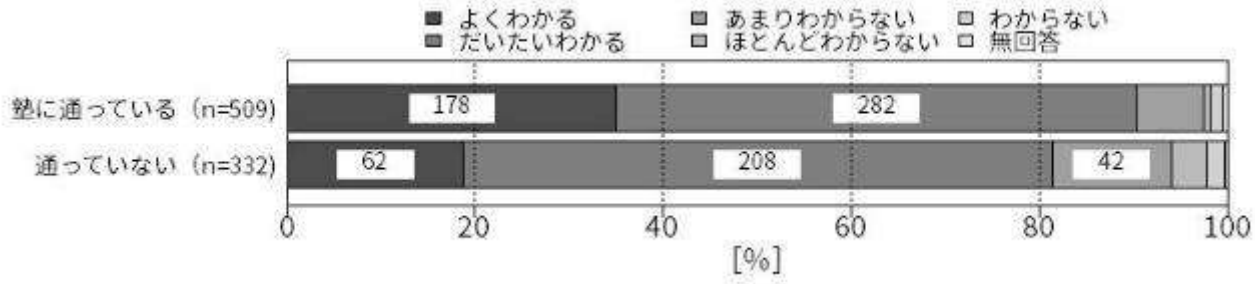
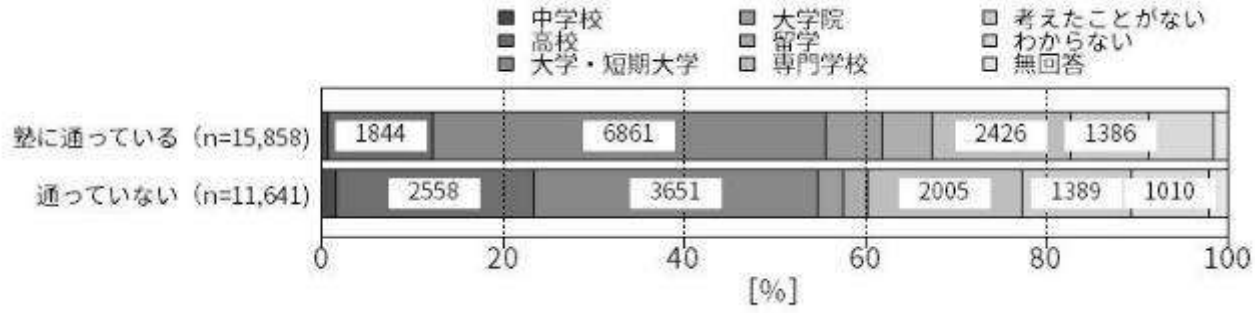


図 219. 学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度

勉強を中心とした塾に通っていない人は、学校の勉強が「よくわかる」と答えた割合が 18.7%であったのに対し、塾に通っている人は 35.0%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先（子ども票　問 15 × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

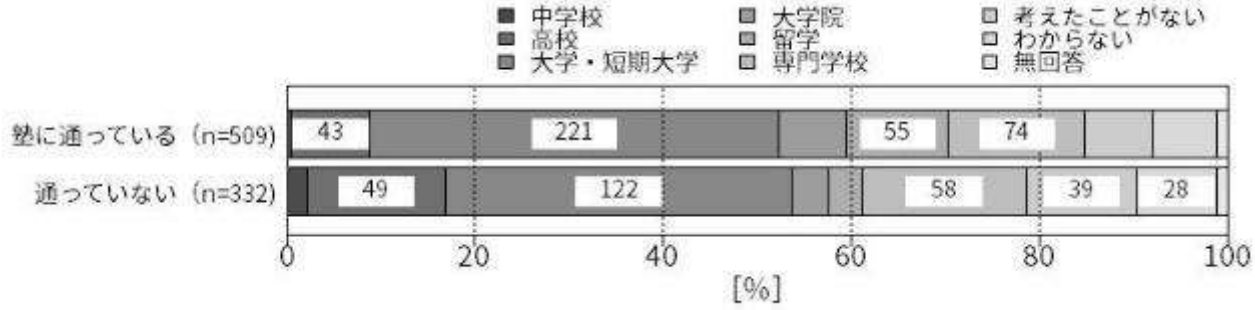
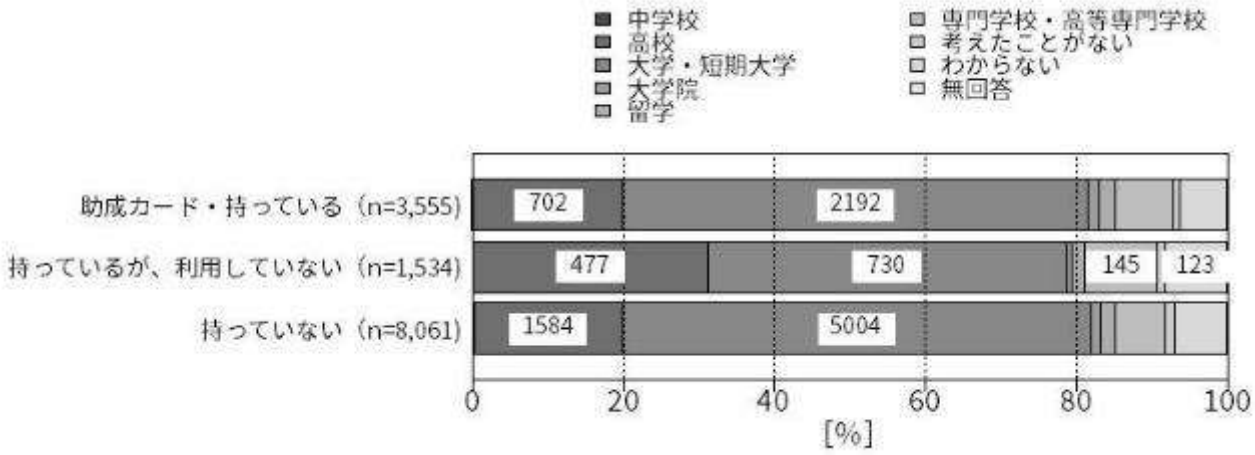


図 220. 学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先

勉強を中心とした塾に通っていない人は、「大学・短期大学」まで行きたいと答えた割合が 36.7%であったのに対し、塾に通っている人は 43.4%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先
（保護者票　問 18 × 保護者票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

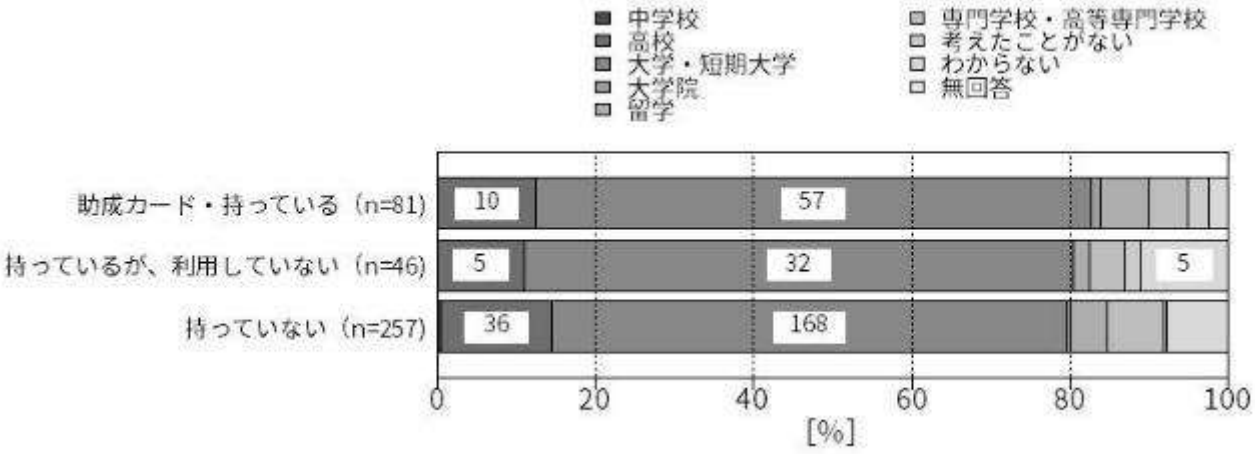
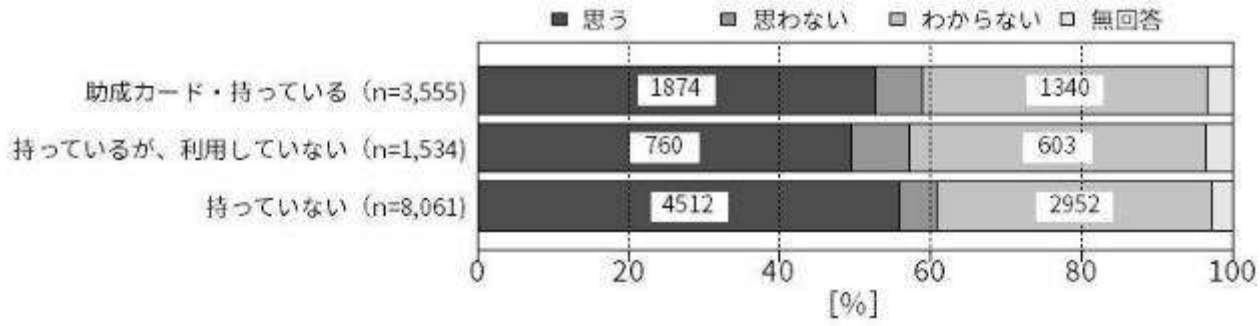


図 221. 塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

塾助成カードを持っていない人は、子どもの進学先について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が 65.4%であったのに対し、持っているが利用していない人が 69.6%、持っている人が 70.4%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測
（保護者票　問 18 × 保護者票　問 16）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

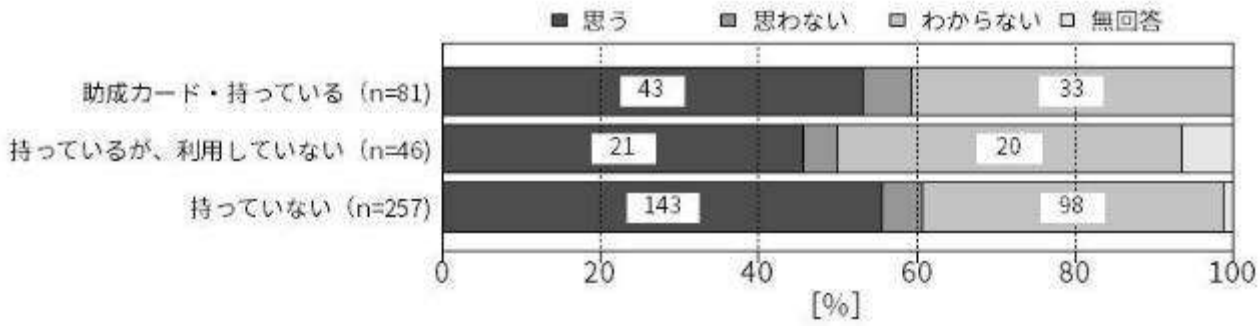
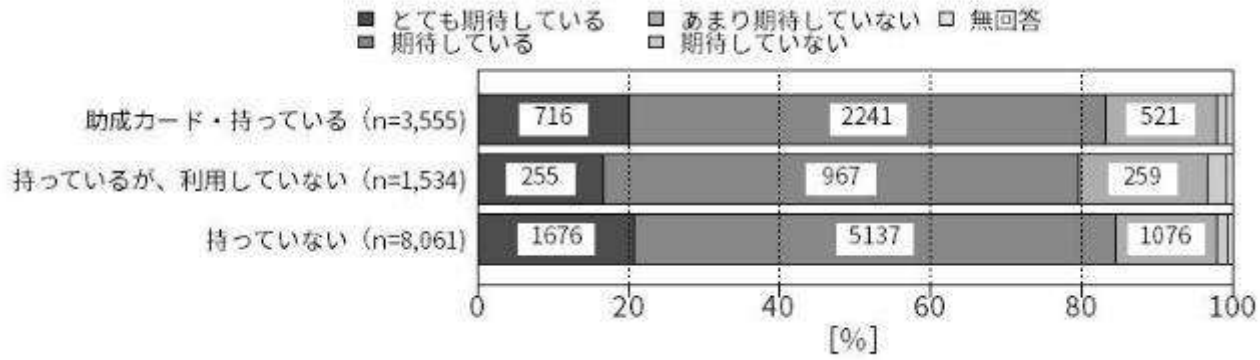


図 222. 塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

塾助成カードを持っていない人は、子どもが希望どおりの学校まで進むと思うと回答した割合が 55.6%であったのに対し、持っているが利用していない人が 45.7%、持っている人が 53.1%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（保護者票　問 18 × 保護者票　問 14(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

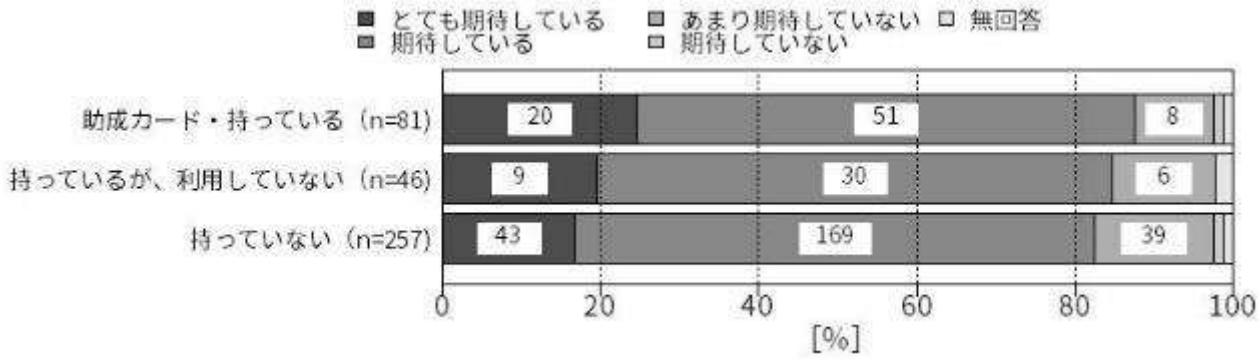


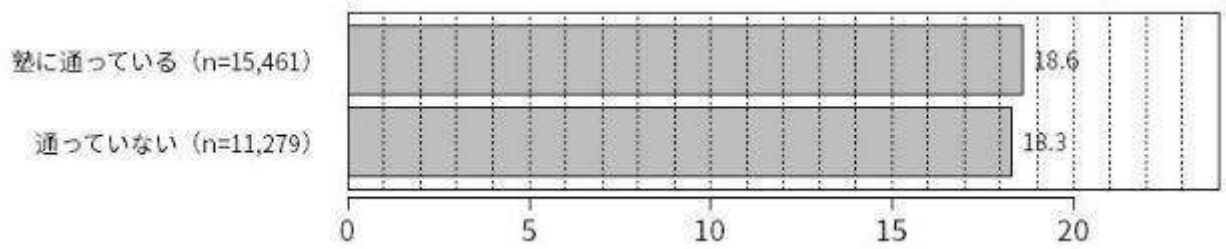
図 223. 塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

塾助成カードを持っていない人は、子どもの将来を「とても期待している」と回答した割合が 16.7%であったのに対し、持っているが利用していない人が 19.6%、持っている人が 24.7%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー
（子ども票　問 15 × 子ども票　問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

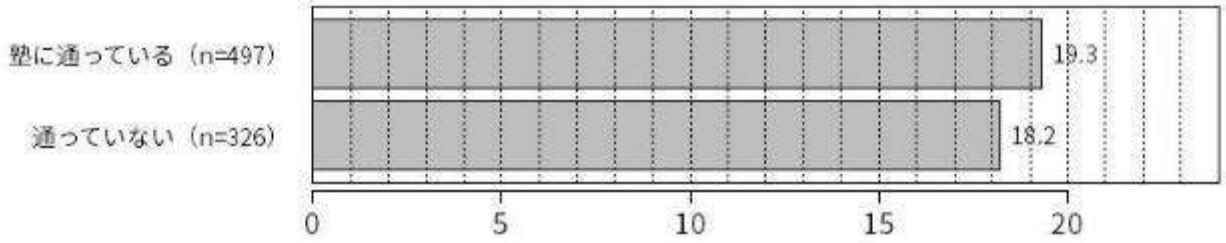
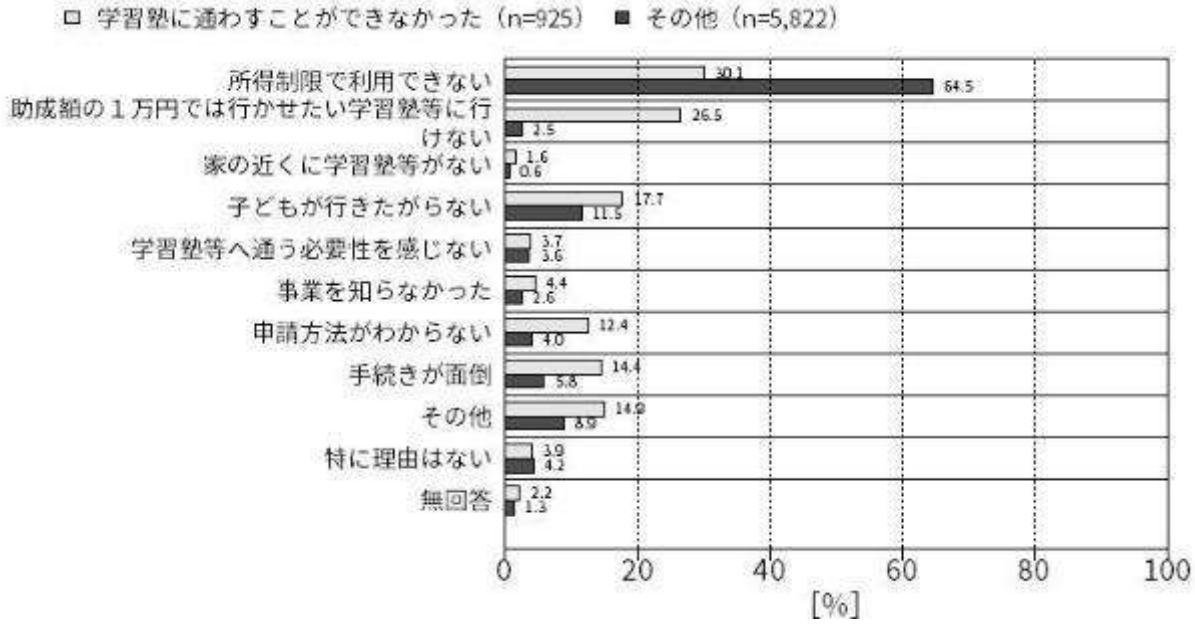


図 224. 学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

勉強を中心とした塾に通っていない人は、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点が 18.2 点であるのに対し、塾に通っている人は 19.3 点である。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由
（保護者票　問 13 の 9 × 保護者票　問 20）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

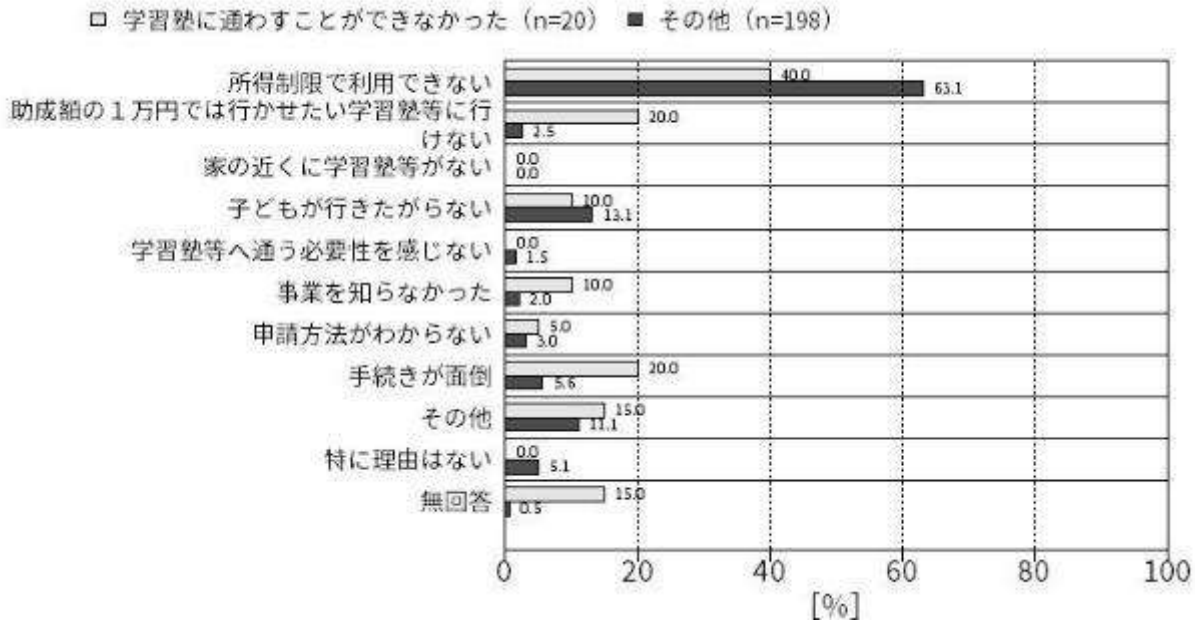
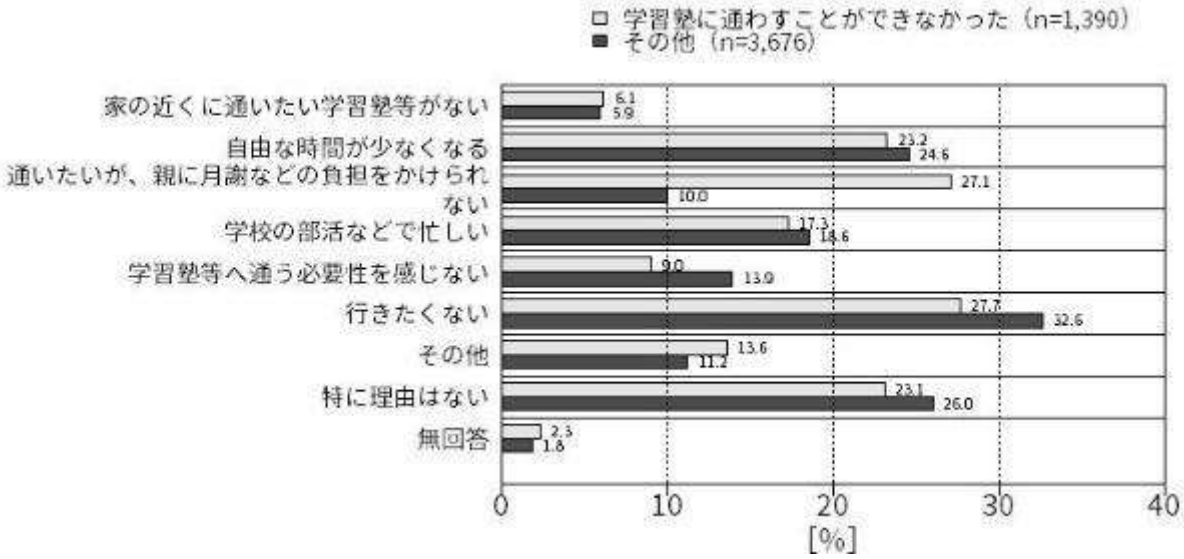


図 225. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由

塾へ通わせられなかった人は、「所得制限で利用できない」という理由で塾代助成カードを持っていない人が 40.0%と最も多かった。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由（保護者票　問 13 の 9 × 子ども票　問 17）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

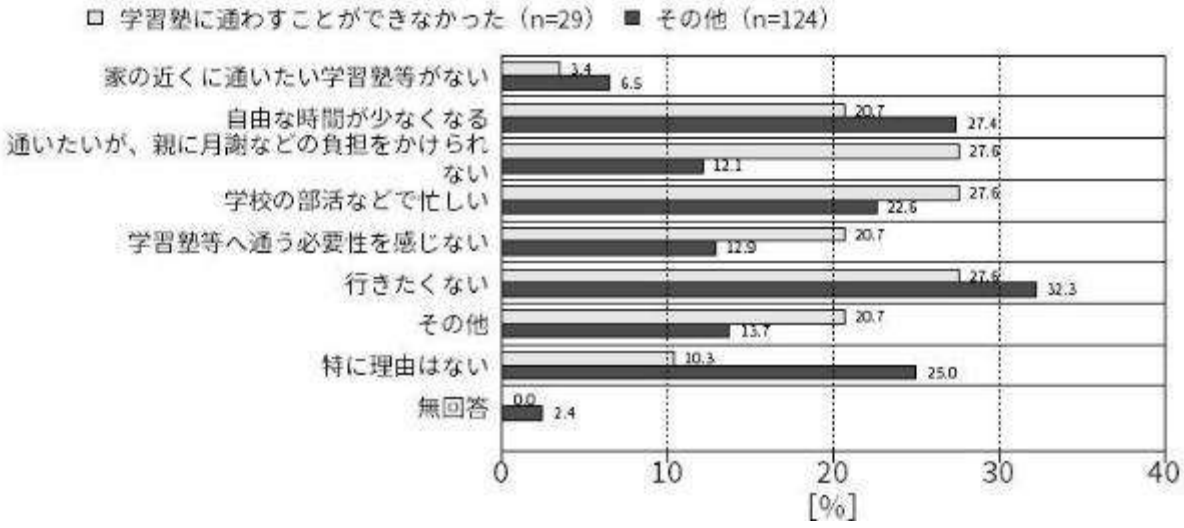


図 226. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由

塾へ通わせられなかった人は、「通いたいが、親に月謝などの負担をかけられない」という理由が 27.6%と最も多かった。

子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値（子ども票　問 25 の 3 × 子ども票　問 14）

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30 分より少ない」「3. 30 分以上、1 時間より少ない」「4. 1 時間以上、2 時間より少ない」「5. 2 時間以上、3 時間より少ない」「6. 3 時間以上」の 6 つの時間枠からひとつを選択させた（「7. わからない」は除く）。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

＜大阪市 24 区＞

＜大阪市西区＞

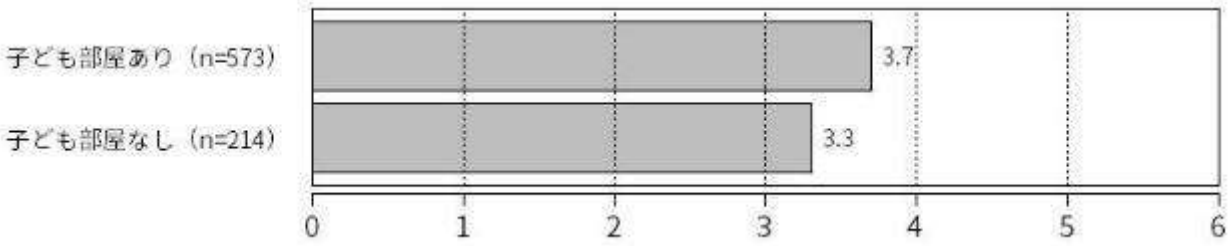
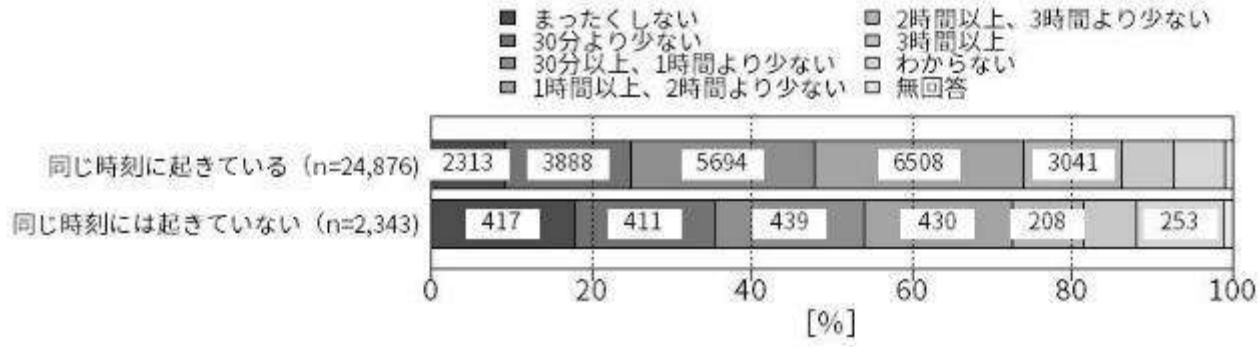


図 227. 子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値

子ども部屋がある場合は 3.7 時間、子ども部屋がない場合は 3.3 時間であった。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票　問 2 × 子ども票　問 14）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

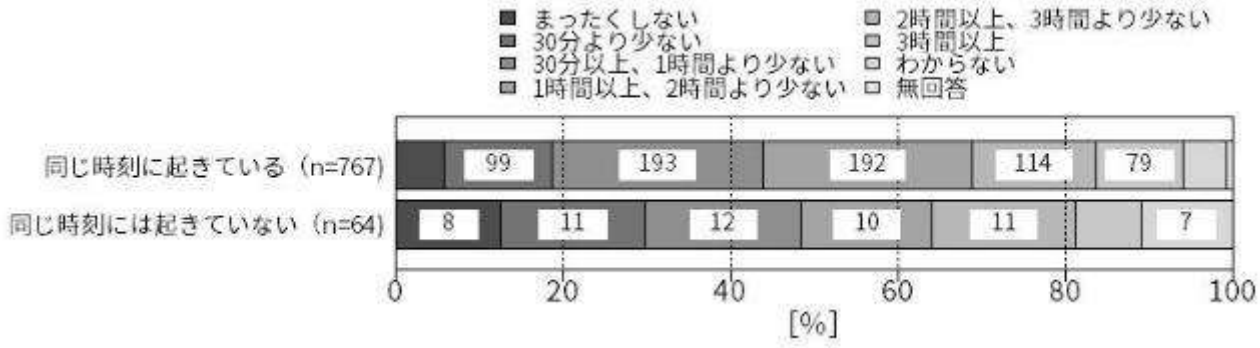
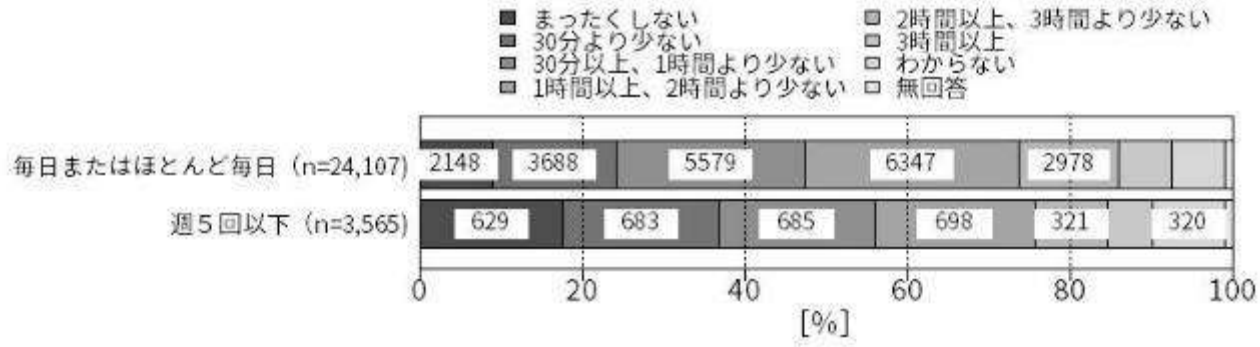


図 228. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問２において「起きている」「どちらかと言えば、起きている」と回答した子どもを「同じ時刻に起きている」、「あまり、起きていない」「起きていない」と回答した子どもを「同じ時刻には起きていない」としている。起床時間の規則性別に授業以外の勉強時間を見ると、「同じ時刻に起きている」子どもの方が、「30 分以上、１時間より少ない」、「１時間以上、２時間より少ない」、「２時間以上、３時間より少ない」と回答した人の割合が高い。「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は 12.5%となっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票　問 5(1) × 子ども票　問 14）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

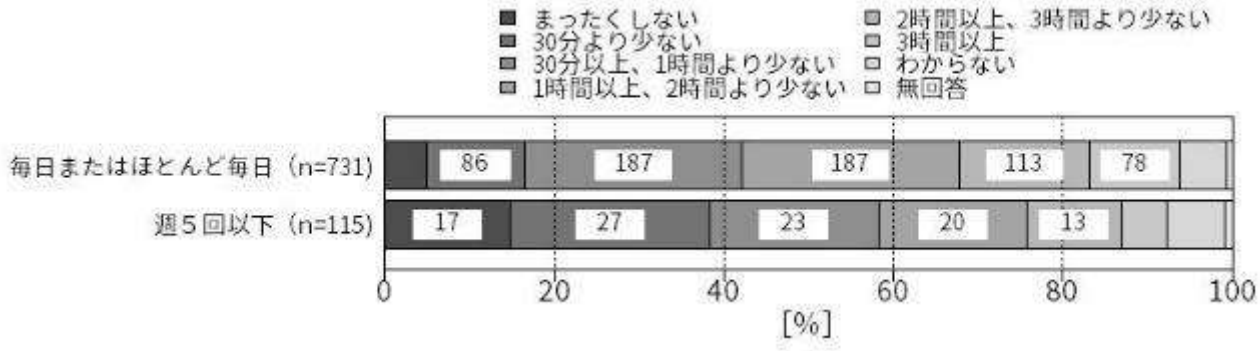
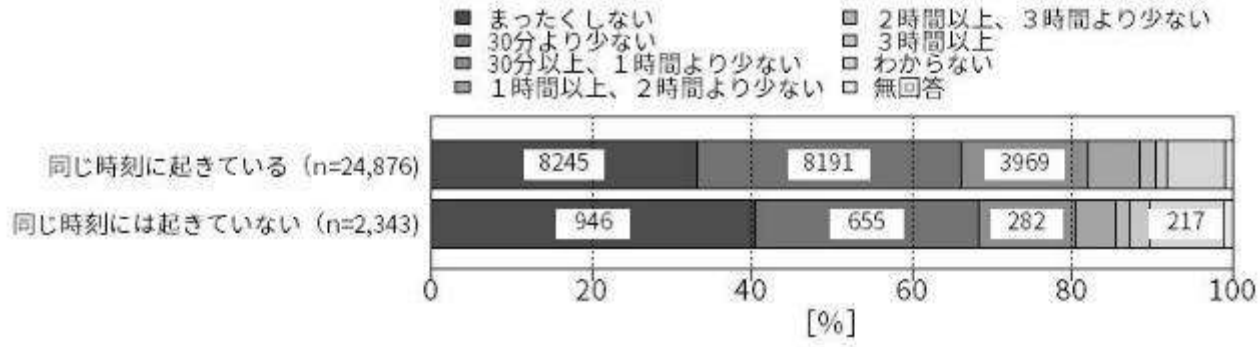


図 229. 朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問５において「毎日またはほとんど毎日」と回答した子どもを「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週５回以下」としている。朝食の頻度別に授業以外の勉強時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30 分より少ない」と回答したのは 11.8%である。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30 分以上、１時間より少ない」「１時間以上、２時間より少ない」「２時間以上、３時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ 25.6%、25.6%、15.5%である。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票　問 2 × 子ども票　問 19）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

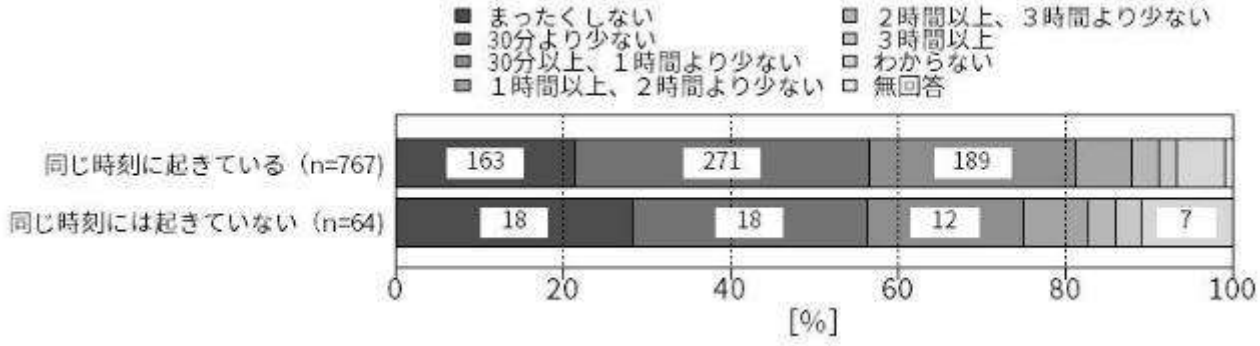
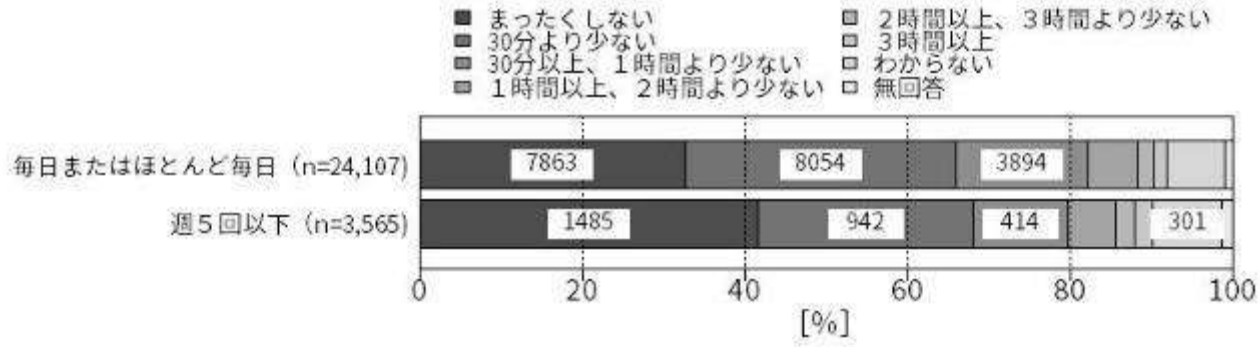


図 230. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は 28.1%である。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票　問 5(1) × 子ども票　問 19）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

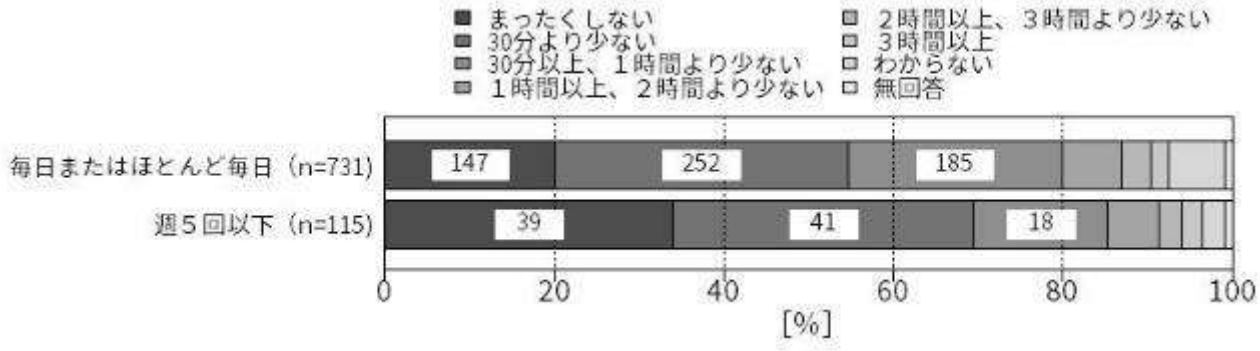


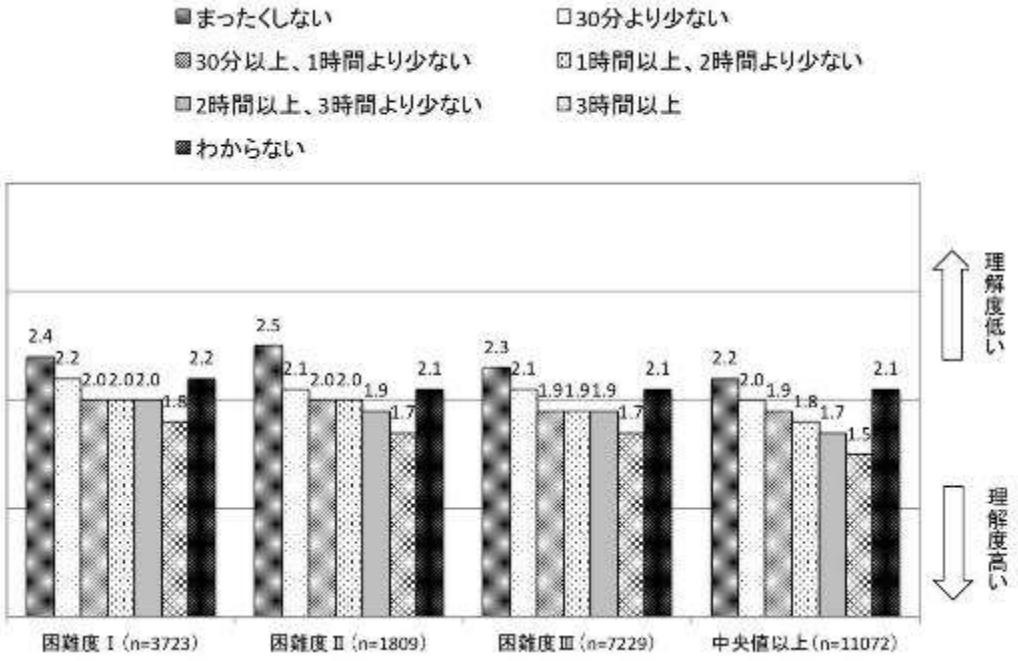
図 231. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは 20.1%であった。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30 分以上、１時間より少ない」「１時間以上、２時間より少ない」「２時間以上、３時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ 25.3%、7.0%、3.4%である。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連（子ども票　問 18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで 4 項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

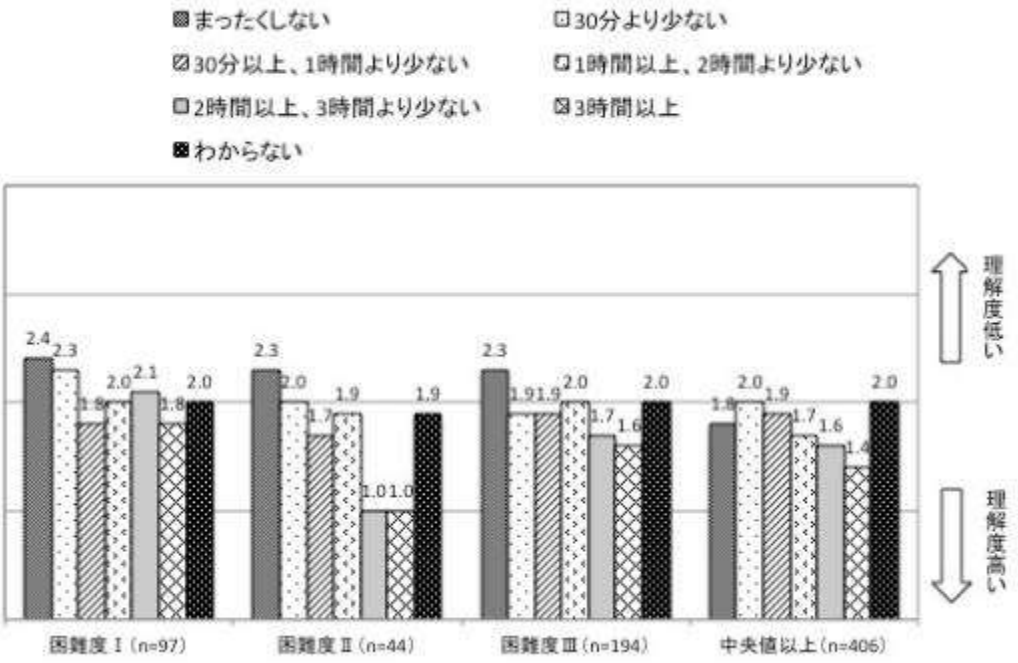
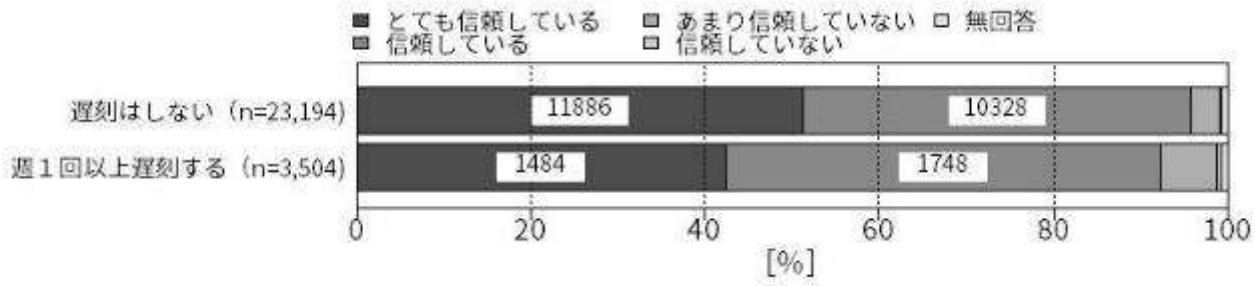


図 232. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連

どの困窮度においても、勉強の理解度が低いほど勉強時間が短かった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）
（子ども票　問 9 × 保護者票　問 14(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

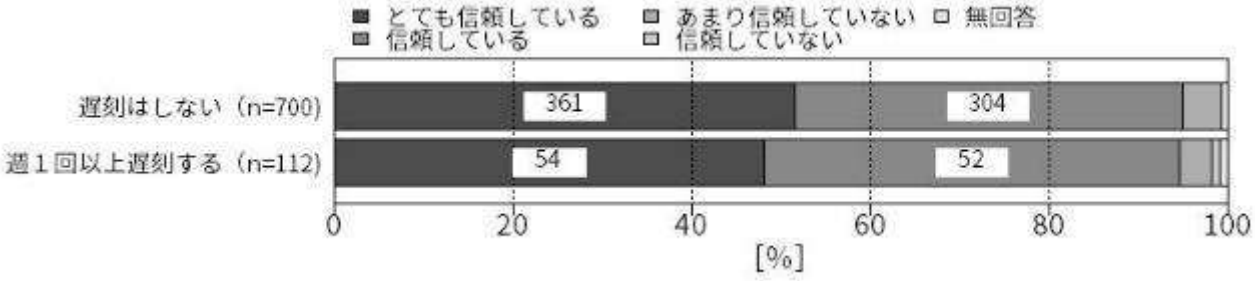


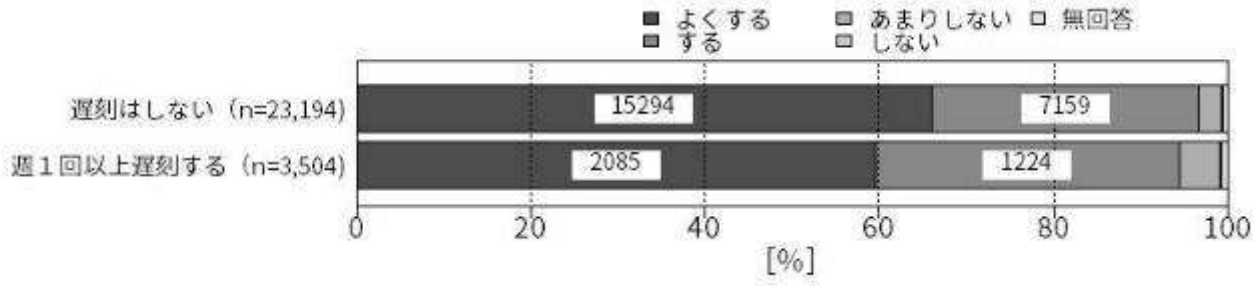
図 233. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

ここでは、子ども票問９において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週１回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は「あまり信頼していない」割合が 4.3%であった。「週１回以上遅刻する」子どもにおいては、保護者は「信頼していない」割合が 0.9%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）
（子ども票　問 9 × 保護者票　問 14(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

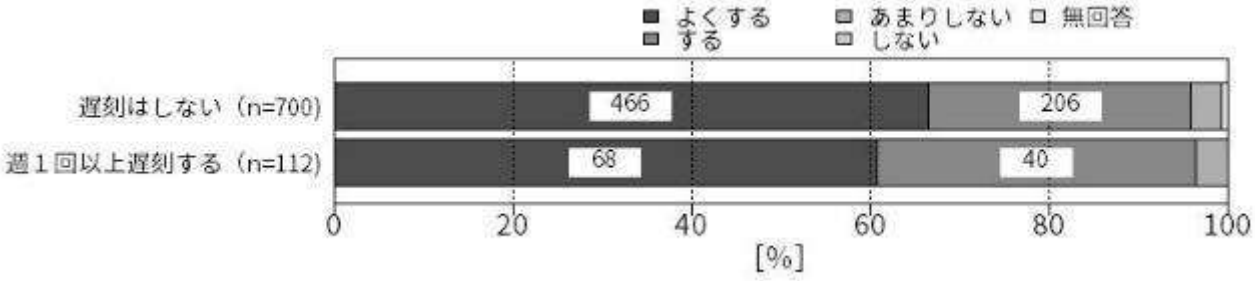


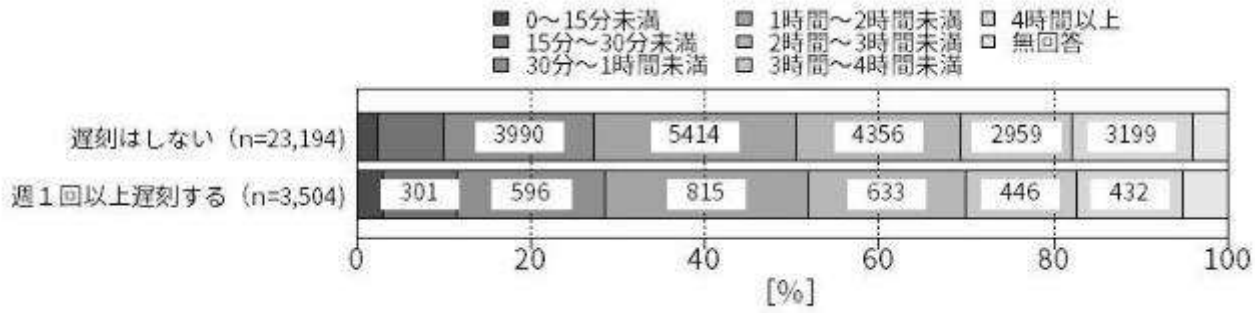
図 234. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

ここでは、子ども票問９において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週１回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は会話を「よくする」割合が 66.6%であった。「週１回以上遅刻する」子どもにおいては、保護者は会話を「あまりしない」割合が 3.6%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（子ども票　問 9 × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

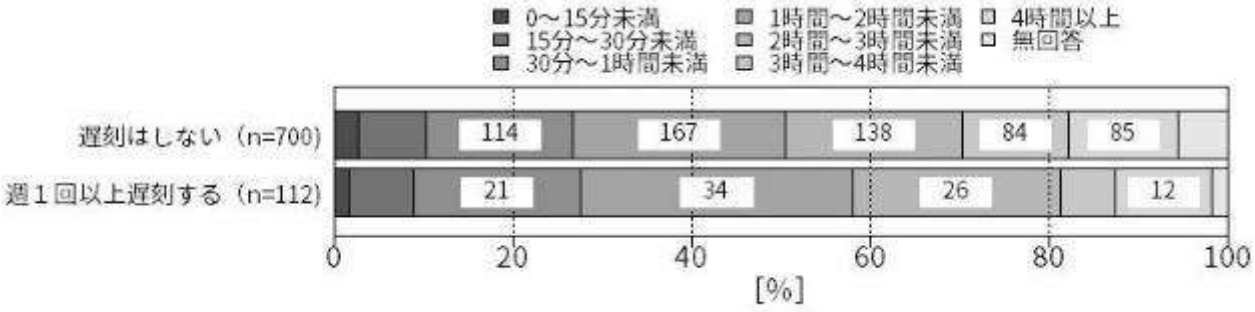
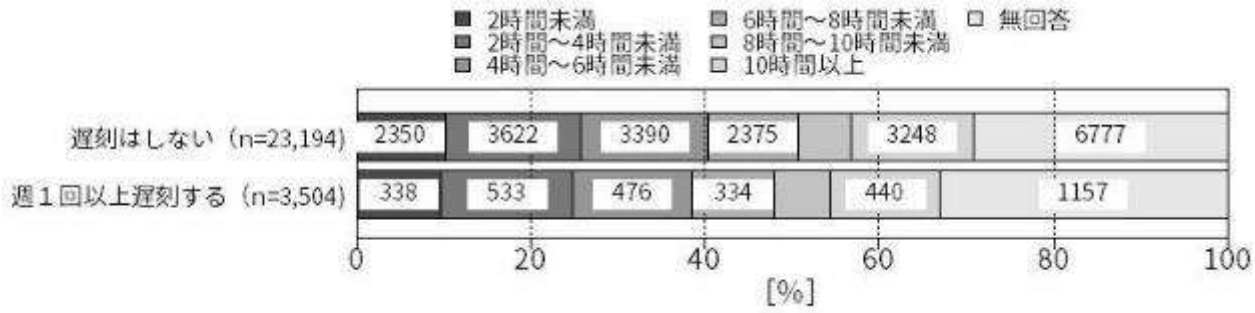


図 235. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（平日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「3 時間～4 時間未満」「0～15 分未満」の割合がそれぞれ 12.0%、2.9%であった。「週 1 回以上遅刻する」子どもにおいては、「2 時間～3 時間未満」「1 時間～2 時間未満」の割合がそれぞれ 23.2%、30.4%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（子ども票　問 9 × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

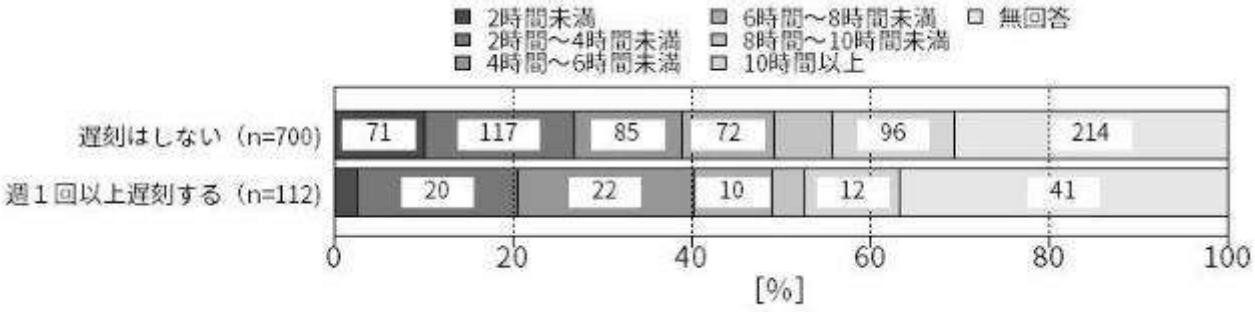
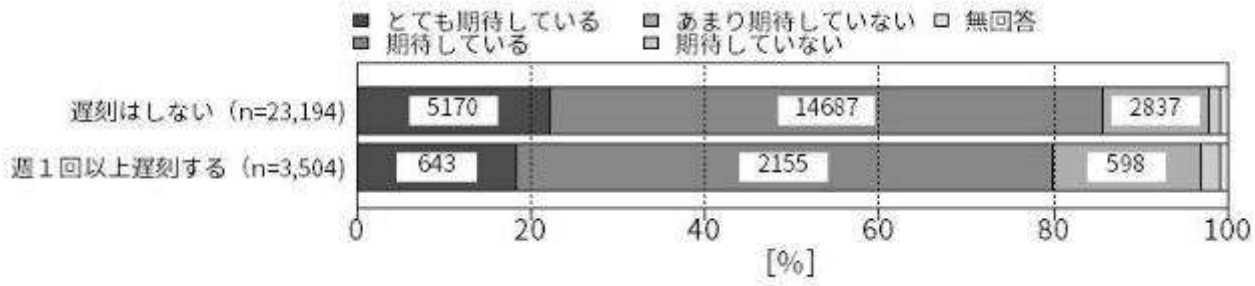


図 236. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（休日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「2 時間未満」「2 時間～4 時間未満」「4 時間～6 時間未満」の割合は、それぞれ 10.1%、16.7%、12.1%、であった。「週 1 回以上遅刻する」子どもにおいては、「2 時間未満」「2 時間～4 時間未満」「4 時間～6 時間未満」の割合は、それぞれ 2.7%、17.9%、19.6%であった。また、いずれも無回答の割合が高かった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（子ども票　問 9 × 保護者票　問 14(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

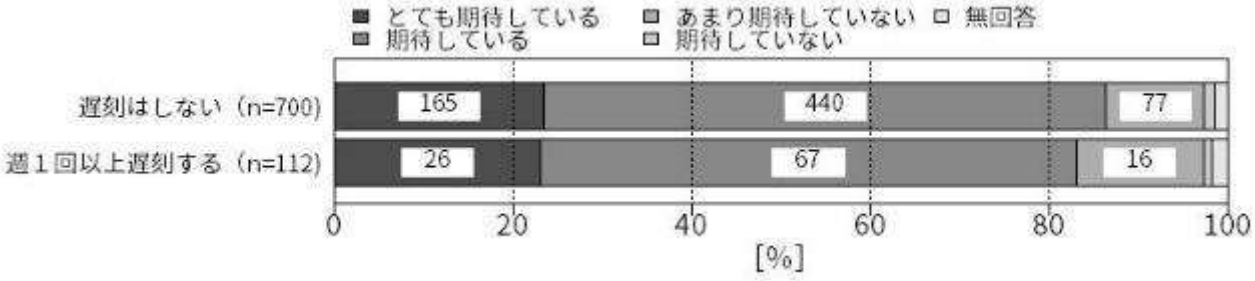
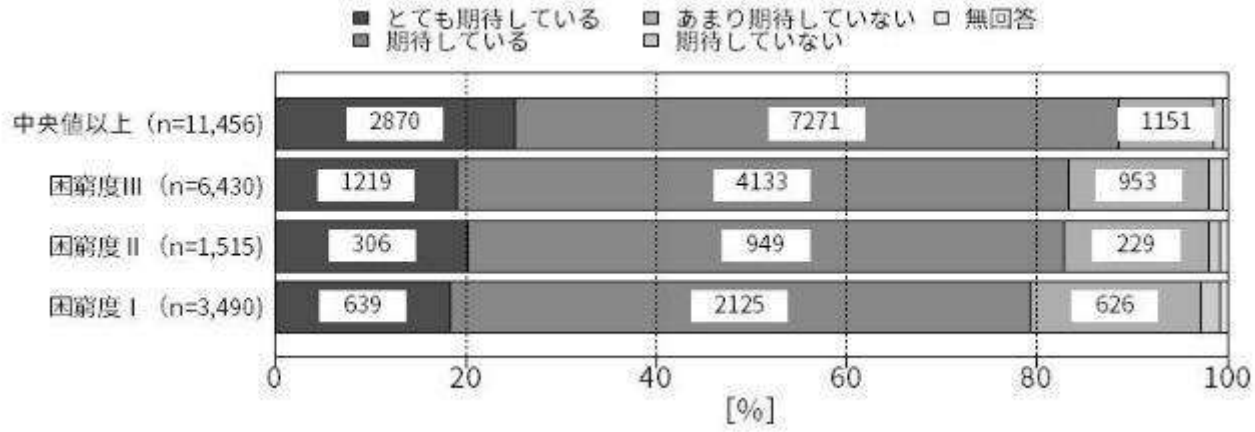


図 237. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は子どもの将来に「とても期待している」割合は、23.6%であった。「週 1 回以上遅刻する」子どもにおいては、23.2%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（保護者票　問 14(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

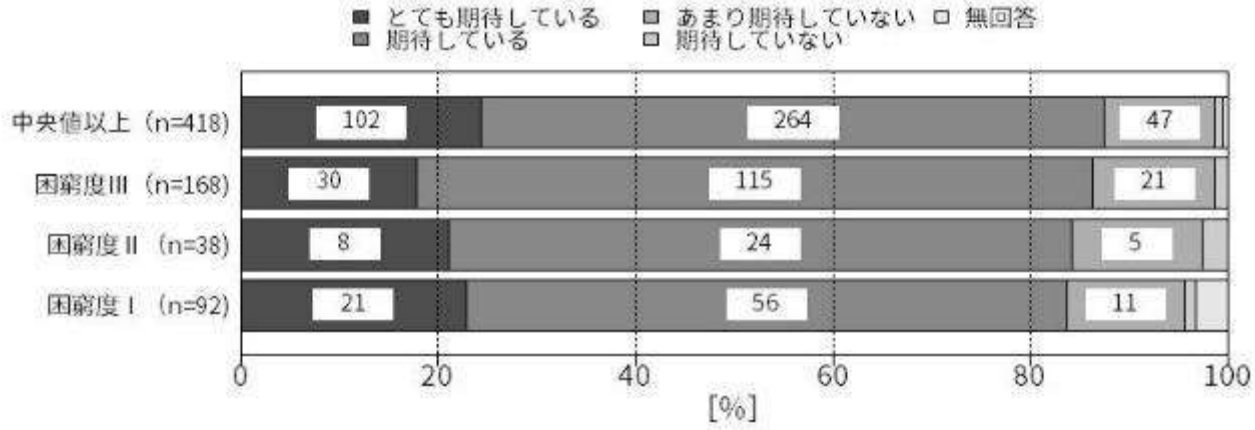
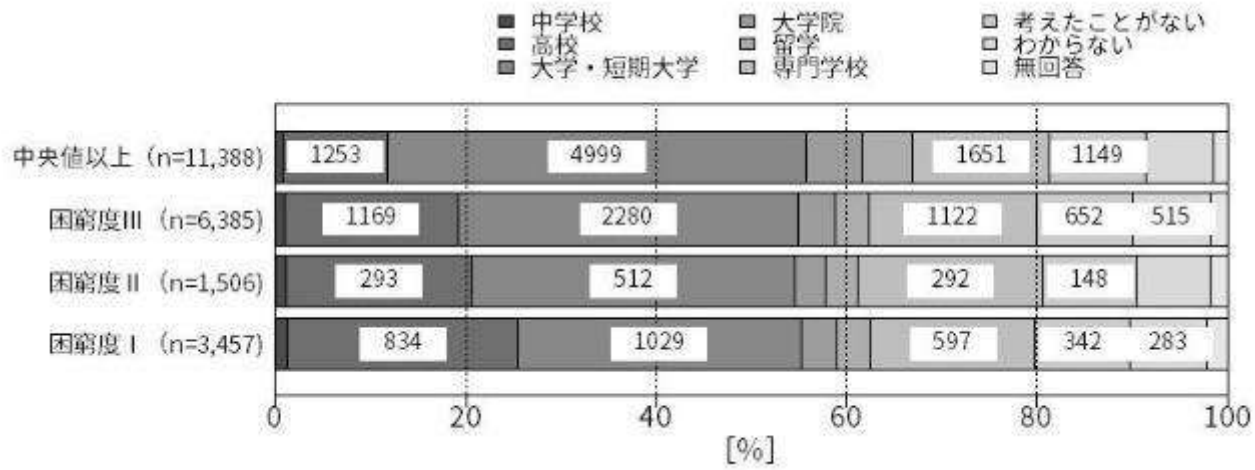


図 238. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「あまり期待していない」「期待していない」が増えている傾向にあった。困窮度 I 群では、「あまり期待していない」「期待していない」を合計すると 13.0%であった。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

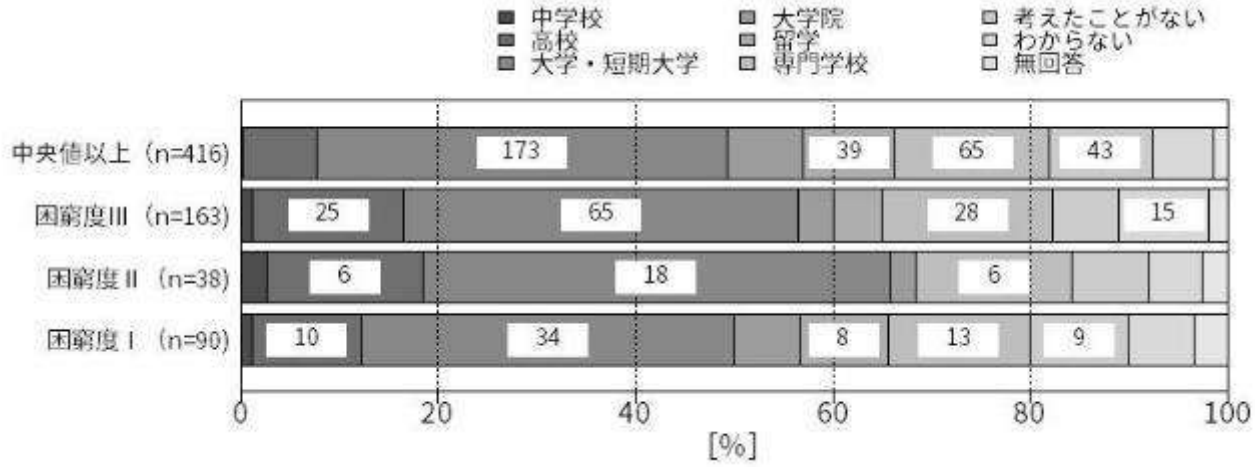
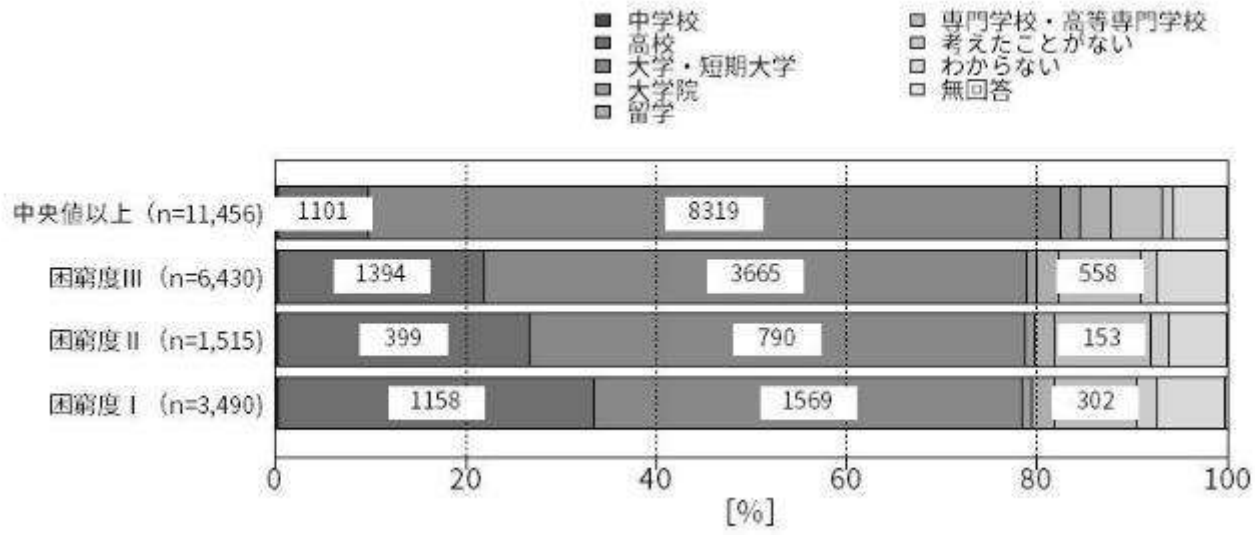


図 239. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合と「専門学校」と回答した子どもの割合が高くなっている傾向にあった。困窮度 I 群では、「中学校」「高校」と回答した子どもは合計 12.2%、「専門学校」と回答した子どもは 14.4%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は、41.6%であった。

困窮度別に見た、子どもの進学予測（保護者票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市西区＞

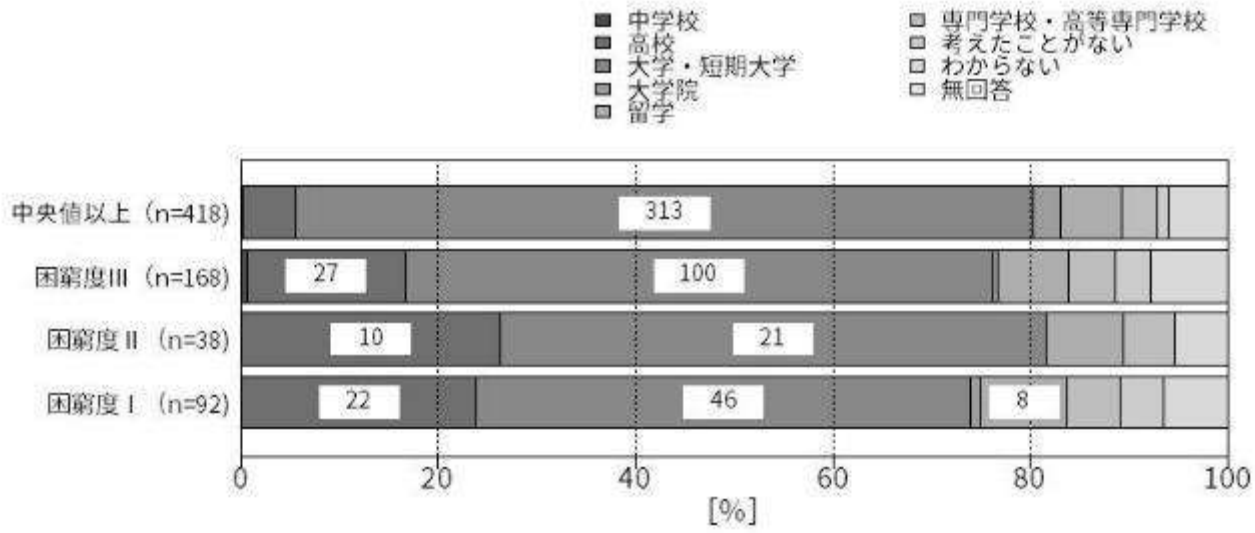


図 240. 困窮度別に見た、子どもの進学予測

困窮度別に子どもの進学予測（保護者による）を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合と「専門学校」と回答した子どもの割合が高くなっている傾向にあった。困窮度 I 群では、「中学校」「高校」と回答した人は合計 23.9%、「専門学校」と回答した人は 5.4%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は、74.9%であった。